

(様式第10)

滋医大ク2-0-1号

令和 6年 10月 4日

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人滋賀医科大学長

上本 伸二

滋賀医科大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和5年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町
氏名	国立大学法人 滋賀医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

滋賀医科大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町
電話(077)548-2111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	無						
内科と組み合わせた診療科名等							
<input checked="" type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科				11リウマチ科

診療実績

「脳神経内科」において、「神経内科」の診療を提供している。
「糖尿病内分泌内科」において、「内分泌内科」及び「代謝内科」の診療を提供している。
「血液内科」において、「感染症内科」の診療を提供している。
「呼吸器内科」、「耳鼻咽喉科・頭頸部外科」、「皮膚科」及び「小児科」において、「アレルギー疾患内科またはアレルギー科」の診療を提供している。
「整形外科」において、「リウマチ科」の診療を提供している。

- (注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科				有			
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科		8小児外科
診療実績							
「外科」において、「乳腺外科」、「内分泌外科」及び「小児外科」の診療を提供している。							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科		11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科				無			
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							
「歯科口腔外科」において、「歯科」の診療を提供している。							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	リハビリテーション科	2	病理診断科	3	形成外科	4	腫瘍内科	5	脳神経内科
6	糖尿病内分泌内科	7	耳鼻いんこう科・ 頭頸部外科	8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
34	0	0	0	569	603

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数	
医師	438	219	469.2	看護補助者	34	診療エックス線技師	0	
歯科医師	12	15	12.7	理学療法士	20	臨床検査 臨床検査技師	59	
薬剤師	38	7	42.8	作業療法士	6		衛生検査技師	0
保健師	0	0	0.0	視能訓練士	7		その他	0
助産師	45	8	48.9	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0	
看護師	586	88	643.4	臨床工学士	20	医療社会事業従事者	6	
准看護師	0	0	0.0	栄養士	0	その他の技術員	22	
歯科衛生士	4	0	4.0	歯科技工士	0	事務職員	207	
管理栄養士	15	1	15.0	診療放射線技師	36	その他の職員	9	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	55	眼科専門医	7
外科専門医	33	耳鼻咽喉科専門医	5
精神科専門医	3	放射線科専門医	21
小児科専門医	32	脳神経外科専門医	9
皮膚科専門医	7	整形外科専門医	14
泌尿器科専門医	12	麻酔科専門医	28
産婦人科専門医	21	救急科専門医	6
		合計	253

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (田中 俊宏) 任命年月日 令和 2 年 4 月 1 日

平成26年4月1日から令和2年3月31日まで、副病院長(医療安全等担当)として、医療安全管理部長、医療安全管理委員会副委員長の経験を有する。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	451.9 人	4.3 人	456.2 人
1日当たり平均外来患者数	795.1 人	52.3 人	847.4 人

1日当たり平均調剤数	811.3	剤
必要医師数	97	人
必要歯科医師数	4	人
必要薬剤師数	16	人
必要(准)看護師数	260	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	507.91 m ²	耐火構造	病床数	12 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 150.88 m ²		病床数	7 床		
	[移動式の場合] 台数 10 台					
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 29.78 m ²					
	[共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	123.55 m ²	耐火構造	(主な設備)	生化学分析装置2台、免疫分析装置3台、血液ガス分析装置1台、ヘモグロビンA1c分析装置1台、浸透圧分析装置1台、アンモニア分析装置1台		
細菌検査室	95.50 m ²	耐火構造	(主な設備)	微生物分類同定分析装置1台、薬剤感受性検査装置1台、血液培養装置2台、微生物由来成分分析装置1台		
病理検査室	74.75 m ²	耐火構造	(主な設備)	自動免疫染色装置2台、自動染色装置1台、包埋装置1台、液状化検体塗抹装置1台、凍結切片作製装置2台、安全キャビネット2台、ドラフトチャンバー1台、マイクローム2台		
病理解剖室	77.88 m ²	耐火構造	(主な設備)	ラミナフロー式病理解剖台1台		
研究室	4804.00 m ²	耐火構造	(主な設備)	リアルタイムPCR装置2台、サーマルサイクラー2台、クリーンベンチ3台、CO2インキュベーター2台、安全キャビネット1台		
講義室	636.00 m ²	耐火構造	室数	3 室	収容定員	624 人
図書室	1285.00 m ²	耐火構造	室数	7 室	蔵書数	17.2万 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	95.4	%	逆紹介率	90.3	%
算出	A: 紹介患者の数		12,101 人		
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		14,000 人		

根拠	C:救急用自動車によって搬入された患者の数	2,689	人
	D:初診の患者の数	15,500	人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
松村 由美	京都大学医学部附属病院 医療安全管理部	○	医療に係る安全管理に関する業務に従事している	無	1
佐和 貞治	京都府立医科大学附属病院		医療に係る安全管理に関する業務に従事している	無	1
平野 哲郎	立命館大学 法科大学院法務研究科		法律学に関する専門知識に基づき教育・研究業務に従事している	無	1
西川 甫	所属なし		医療を受ける者の立場から意見を述べる	無	2
遠山 育夫	滋賀医科大学		大学の理事(研究・企画・国際担当)の立場で意見を述べる	有	3
松浦 博	滋賀医科大学		大学の理事(教育・学生支援・コンプライアンス担当)の立場で意見を述べる	有	3

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
病院ホームページに掲載している。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	次世代シークエンサーを用いた家族性不整脈症候群の遺伝子解析	取扱患者数	518人
当該医療技術の概要			
既知の候補遺伝子には変異が同定されなかった家族性不整脈症候群症例において、次世代シークエンサーを用いることにより、全エクソン領域の変異を同定し、疾患の原因遺伝子の同定を試みている。			
医療技術名	リアルタイム位相マッピング装置による心房細動の可視化診断	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要			
従来、心内電位波形しか記録できず治療法が未確立であった持続性心房細動に対して、本学の芦原らが発明したオンライン・リアルタイム位相マッピング装置(平成27年8月薬機承認)で心房細動の複雑な興奮動態を瞬時に映像化し、患者毎に異なる心房細動の持続メカニズムを診断することで、新たな治療戦略の確立を目指している。			
医療技術名	経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)	取扱患者数	55人
当該医療技術の概要			
自己心拍下にカテーテルを用いて生体弁を大動脈に留置する新しい治療。従来の外科手術で必要であった開胸や人工心肺使用が不要であるため、高齢者などのハイリスク患者への有用な治療法として期待している。			
医療技術名	高周波ホットバルーンによる発作性心房細動アブレーション	取扱患者数	39人
当該医療技術の概要			
発作性心房細動に対する肺静脈隔離術を行うにあたり、従来の高周波焼灼術はカテーテルで点状に焼灼して左心房と肺静脈の電氣的つながりを遮断していたのに対して、高周波電流で過熱されたバルーン形状のカテーテルを肺静脈入口部に当てて円周状に焼灼し電氣的つながりを遮断できる新しい術式である。通常のカテーテルによるカテーテルアブレーションに比べて、より簡便かつ短時間での肺静脈隔離を実現できる。			
医療技術名	クライオバルーンによる発作性心房細動アブレーション	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要			
発作性心房細動に対する肺静脈隔離術を行うにあたり、従来の高周波焼灼術はカテーテルで点状に焼灼して左心房と肺静脈の電氣的つながりを遮断していたのに対して、冷凍焼灼は亜酸化窒素ガスを使用したバルーン形状のカテーテルを肺静脈入口部に当てて円周状に焼灼し電氣的つながりを遮断できる新しい術式である。通常のカテーテルによるカテーテルアブレーションに比べて、より簡便かつ短時間での肺静脈隔離を実現できる。			
医療技術名	完全皮下植込み型除細動器(S-ICD)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
新型の植込み型除細動器(ICD)(平成28年薬機承認、保険適応)で、従来型のような心臓内リードを必要としないため、リードの感染や断線、血管閉塞や癒着など、リードそのものによるトラブルを無くすることができる。そのため、感染リスクの高い患者、若年の患者などにも適応が広がった。京滋奈良地区で初となるS-ICD手術は当院当科で実施した。			
医療技術名	リードレスペースメーカ植え込み術	取扱患者数	31人
当該医療技術の概要			
新型の超小型ペースメーカ(平成28年薬機承認、保険適用)で、経静脈的にペースメーカ本体のみを心室内に植込むことのできるリードレスのMRI対応型ペースメーカである。リード断線やリード感染など、ペースメーカリードに関連する合併症の心配がなく、植込み後の患者負担も極めて低いことから、利用可能性が高まると期待される。			
医療技術名	経静脈的ペースメーカーリード抜去術	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要			
デバイス感染、デバイス治療合併症(リコール、断線、閾値上昇など)、アップグレード、高度の機能獲得のための不要リードの除去などの目的に従来は開胸で行っていた技術であるが、メカニカルシースを用いることで経静脈的に抜去する極めて難度の高い技術である。滋賀県下では当院が最初であり、症例数もいちばん多い。			
医療技術名	心房細動に対する肺静脈隔離術後の肺静脈狭窄拡張術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要			
心房細動における肺静脈隔離術を行った時の合併症に肺静脈狭窄が起こることがある。肺静脈内部での通電で静脈血管の狭窄が起こると考えられている。肺静脈の狭窄により呼吸困難や咯血を認めるようになる。外科的に開胸で肺静脈の再建を行う方法以外にカテーテルでバルーンやステントを用いて狭窄した肺静脈を拡張する方法である。			

医療技術名	重症僧帽弁閉鎖不全症に対する経カテーテル僧帽弁接合不全修復術	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 外科手術困難な僧帽弁閉鎖不全症患者を対象とし、経皮経静脈アプローチにてカテーテル操作を行い、僧帽弁の前尖と後尖をクリップで把持して逆流を制御するという難易度の高い手技である。滋賀県下では当院でしかできない治療であり、治療開始から10例実施したが、今後さらなる症例数の増加が見込まれている。			
医療技術名	補助人工心臓治療 インペラ(IMPELLA)	取扱患者数	37人
当該医療技術の概要 インペラ(IMPELLA)は、世界最小のハートポンプであり、小型の軸動流ポンプを用いることにより血液を左心室から吸入し上行大動脈に吐出させる仕組みを持つ心原性ショックに対する循環補助装置です。 インペラ(IMPELLA)は、迅速導入が可能かつ強力な循環補助により予後を改善させる可能性が示されており、具体的には心原性ショックを合併した急性心筋梗塞や劇症型心筋炎、超重症心不全の増悪で搬送される症例に有効と考えられています。			
医療技術名	左心耳閉鎖術・経カテーテルによる不整脈治療 (WATCHMAN)	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 非弁膜症性心房細動において血栓が最もできやすい心臓の左心房にある「左心耳」を閉鎖し脳卒中を予防する医療機器で、非弁膜症性心房細動を罹患し長期間の抗凝固薬の服用ができない患者さんに対して1回限りのカテーテル手技で心房細動による脳卒中を予防するという新しい治療の選択肢であります。			
医療技術名	成人急性リンパ性白血病に対する治療プロトコール ALL/MRD2019	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 急性リンパ性白血病に対して、寛解後の測定可能残存・微小残存病変の有無を指標にリスク別の寛解後療法を行うことにより、リスクに応じた移植適応の確率を図る。さらに、微小残存病変陽性のCD19陽性群またはフィラデルフィア陽性群におけるblinatumomabまたはponatinibを含む地固め療法により、微小残存病変陰性化を図ることによる治療成績の向上を試みる。			
医療技術名	成人急性リンパ性白血病治療におけるプレジジョンメディスン研究	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 成人急性リンパ性白血病の病態および薬剤感受性を規定する細胞・個体レベルの因子同定および造血幹細胞移植後の高感度キメラズン測定法の開発を行うことにより、成人急性リンパ性白血病治療における、将来のプレジジョンメディスン(精密医療)の基盤となる知見を得ることを試みる。			
医療技術名	ベクロメタゾン腸溶性カプセル	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 造血幹細胞移植後、急性腸管移植片対宿主病(GVHD)を対象疾患として、全身のステロイド使用量を減量するため、全身のステロイド投与とともに、局所療法としてベクロメタゾン腸溶性カプセルを院内調整し、1回1～2mgを1日4回内服する。			
医療技術名	アグレッシブATLにおける予後因子の検討と個別化医療の確立を目的とした全国一元化レジストリおよびバイオレポジトリの構築	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 共同研究機関で新規診断されたアグレッシブ成人 T 細胞白血病・リンパ腫(adult T-cell leukemia-lymphoma: ATL)患者を全例登録する全国一元化レジストリを構築し、日常診療における予後因子の現状について検討する多施設前向き観察研究を実施する。			
医療技術名	成人急性リンパ性白血病に対する治療プロトコール -ALL/ MRD2023-	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 急性リンパ性白血病に対して、寛解後の測定可能残存・微小残存病変の有無を指標にリスク別の寛解後療法を行うことにより、リスクに応じた移植適応の確率を図る。さらに、微小残存病変陽性のCD19陽性群またはフィラデルフィア陽性群におけるblinatumomabまたはponatinibを含む地固め療法により、微小残存病変陰性化を図ることによる治療成績の向上を試みる。			
医療技術名	小児・AYA・成人に発症したB前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する多剤併用化学療法の多施設共同第III相臨床試験	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 JCCGとJALSG合同の多施設共同介入研究であり、小児型の多剤併用化学療法を全年齢に適切な用量調整基準とともに適応し、分子遺伝学的診断およびMRDに基づいたリスク層別化を行うことで治療成績を向上させ、さらにランダム化比較試験により検証し、ALLの治療成績を改善することを目的とする(・高リスク(HR)群に対するプリナツモマブ導入の優越性を検証すること ・患者特性に応じた最適な維持療法期間を検証すること)。			
医療技術名	急性骨髄性白血病の疾患分類ごとのWT1-mRNA値の評価、および治療経過における推移の解析	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 白血病の腫瘍マーカーであるWT1-mRNAの値と急性骨髄性白血病の病型、リスク因子、治療経過、その他検査値との関連性を解析する。また、白血病の病型分類、リスク分類、微小残存病変の評価法の一部では本邦では保険適応検査ではなく、欧米でのみ測定可能な項目もあわせて解析する。			

医療技術名	再生不良性貧血におけるウサギATG+シクロスポリン+エルトロンボパグ療法の有用性に関する検討	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要			
輸血を必要とする再生不良性貧血 (stege 2b以上) に対して、ウサギATG、シクロスポリン、エルトロンボパグ併用の免疫抑制療法を施行することにより、血液学的奏功 (完全寛解または部分寛解) への到達を前向きに検討し、さらに体細胞遺伝子変異の出現の種類と頻度、経時的な変異クローンの拡大の有無を検討する。			
医療技術名	神経変性疾患の遺伝子診断	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病などの神経変性疾患の一部は遺伝性であり、診断確定には遺伝子診断が必要である。今後核酸治療の普及を踏まえ、当科では頻度の高い神経変性疾患の遺伝子診断を行っている。診断確定後の遺伝子カウンセリング体制も整えている。			
医療技術名	筋萎縮性側索硬化症に対するメチルコバラミン (E0302) の第 III 相臨床試験 (医師主導治験)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
ALSに対する高容量メチルコバラミンは発症早期からの投与によって進行を著明に抑制する可能性が示されたが、さらに症例数を増加させて効果の有無を検証する。			
医療技術名	進行期パーキンソン病に対するデュオドーパ経十二指腸持続投与	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要			
進行期パーキンソン病患者に於いて、OFF期の出現やジスキネジアが出現するが、内服治療は困難で煩雑である。デュオドーパを十二指腸への持続的経管投与を一定容量で行うことによって、著明な症状の安定化が得られる。			
医療技術名	脊髄小脳変性症に対する集中リハビリテーションプログラム	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要			
脊髄小脳変性症は進行性で有効な内服治療の神経難病である。当科では4週間の独自の理学療法、作業療法、言語療法を集中的に行うプロトコルを有しており、小脳失調の機能や認知機能が改善が期待される。			
医療技術名	筋萎縮性側索硬化症の上肢に対するSEMグローブ治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
筋萎縮性側索硬化症は進行性の筋萎縮と筋力低下を呈する神経難病である。脱力をきたした筋肉に過度な負荷を与えることはかえって進行を促進することが知られており、最適なりハビリテーションについては議論の分かれるところである。我々は抗重力以下の筋力である趣旨に、SEMという電気式アシストグローブを用いたリハビリテーションを行っている。即時効果の改善が期待される。			
医療技術名	アルツハイマー病に対する抗アミロイド抗体の国際第3相ランダム化試験	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
アルツハイマー病に於いて疾患の原因の一つと考えられているアミロイドβの異常構造を特異的に認識する抗体 (BAN2401)の有効性について、国際第3相ランダム化二重盲検比較試験を行う。			
医療技術名	パーキンソン病患者に対するレボドパ皮下注射製剤投与	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
治療後長期が経過したパーキンソン病患者に合併するOFF症状やジスキネジアに対して、持続皮下注射製剤を用いて24時間血中レボドパ濃度を一定にする治療法である。			
医療技術名	脳髄黄色腫に対するケノデオキシコール酸治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
脳髄黄色腫症はシトクロムP-450 (CYP) 遺伝子変異によってコレステロール水酸化酵素遺伝子の変異によって27-ヒドロキシラーゼが産生されず、体内にコレスタノールが蓄積することで中枢神経症状と全身臓器症状を呈する遺伝性疾患である。ケノデオキシコール酸はコレスタノール産生を抑えて症状の進行を抑制することが可能な治療であるが保険適用はない。当院では未承認高難度治療として承認を受け、遺伝子診断がなされた患者に治療をおこなっている。			
医療技術名	慢性炎症性脱髄性多発神経症 (CIDP) に対する免疫グロブリン (TAK771) 皮下注射製剤の有効性	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
CIDPに対する標準治療は免疫グロブリン製剤の静脈内投与であるが、高い浸透圧による化学性髄膜炎や血栓傾向を回避するため5時間以上かけて点滴をする。本治験は治療量を濃縮したガンマグロブリンにヒアルロニダーゼを同時投与することによって皮下注射を行うこの安全性と有効性を検討する治験である。			

医療技術名	レキユニール腹膜透析液を用いたLeigh脳症に合併する慢性腎不全の治療	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 ミトコンドリア遺伝子異常(Mt8993変異を有する)を背景とするLeigh脳症の患者に対し、慢性腎不全の治療目的に腹膜透析を実施する。腎代替療法として(1)腎移植、(2)血液透析、(3)腹膜透析が選択肢であるが、(1)腎移植は心機能低下のため適応でなく、(2)血液透析は低体重のためリスクが高く、さらに透析実施中の家人の付き添いが不可能で選択できないため、(3)腹膜透析を選択せざるを得ない。患者の血清Ca濃度および体液量に合わせて、”HCa”製剤(Ca2+濃度3.5mEq/L)または”LCa”製剤(Ca2+濃度2.5mEq/L)、“1.5”製剤(ブドウ糖濃度1.36%)または”2.5”製剤(ブドウ糖濃度2.27%)を適宜選択して使用する。			
医療技術名	小児・AYA・成人に発症したB前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する多剤併用化学療法の多施設共同第III相臨床試験	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 診断時年齢1歳以上65歳未満の初発B細胞性急性リンパ性白血病を対象として行う、JCCGとJALSG合同の多施設共同介入研究である。小児型の多剤併用化学療法を全年齢に適切な用量調整基準とともに適応し、分子遺伝学的診断およびMRDに基づいたリスク層別化を行うことで治療成績を向上させ、さらに以下についてランダム化比較試験により検証し、ALLの治療成績を改善することを目的とする。 ・低リスク(LR)群に対する化学療法減弱の非劣性を検証すること ・高リスク(HR)群に対するブリナツモマブ導入の優越性を検証すること ・患者特性に応じた最適な維持療法期間を検証すること			
医療技術名	小児急性骨髄性白血病を対象とした微小残存病変を用いた層別化治療、および非低リスク群に対する寛解導入後治療におけるゲムツズマブオゾガマイシン追加の有効性及び安全性を検証するランダム化比較第III相臨床試験	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 小児 de novo 急性骨髄性白血病(AML)を対象として、細胞遺伝学的異常と寛解導入療法後の形態学的治療反応性および微小残存病変(MRD)を層別化因子とし適切な強度の治療の実現を目的とする。低リスク群(LR群: Core binding factor(CBF)-AML かつ初回寛解導入療法後 MRD 陰性かつ FLT3-ITD 陰性)においては、治療成績を担保しつつ治療毒性を軽減することを目的とする。中間リスク群(IR群: CBF-AML かつ初回寛解導入療法後 MRD 陽性もしくは FLT3-ITD 陽性、または予後不良細胞遺伝学的異常を有さない非 CBF-AML かつ初回寛解導入療法後 MRD 陰性)および高リスク群(HR群: 予後不良細胞遺伝学的異常を有する AML、予後不良細胞遺伝学的異常を有さない非 CBF-AML かつ初回寛解導入療法後 MRD 陽性、または初回寛解導入療法後非寛解)については、強化療法でGemtuzumab ozogamicin (GO)投与群と GO 非投与群のランダム化比較試験を行い、GO 投与の有効性と安全性について検証する。			
医療技術名	一過性骨髄異常増殖症(TAM)に対する化学療法による標準治療法の確立を目指した第2相臨床試験	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 一過性骨髄異常増殖症(transient abnormal myelopoesis; TAM)を対象として、少量シタラビン療法の有効性・安全性について介入試験(非盲検・非対照)により検証する。また、少量シタラビン療法を施行しない症例も含んだ、全TAM診断例における微小残存病変の残存率を検証する。			
医療技術名	横紋筋肉腫中間リスク群患者に対するVAC2.2(ビンクリスチン、アクチノマイシンD、シクロホスファミド2.2g/m ² /VI(ビンクリスチン、イリノテカン)療法の有効性及び安全性の評価第II相臨床試験実施計画書	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 Stage 2、3、Group IIIに分類される胎児型横紋筋肉腫、Group I、II、または、Stage1、Group IIIに分類される胞巣型横紋筋肉腫の中間リスク群の患者に対する、VAC2.2療法(ビンクリスチン、アクチノマイシンD、シクロホスファミド2.2g/m ²)、VI療法(ビンクリスチン、イリノテカン)の交代療法の有効性と安全性を評価する。			
医療技術名	小児の複数回再発・難治ALLに対する少量シタラビンとブリナツモマブによる寛解導入療法の第II相臨床試験	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 小児の再発・難治B前駆細胞性急性リンパ性白血病(acute lymphoblastic leukemia: ALL)に対する少量シタラビンとブリナツモマブによる寛解導入療法の有効性と安全性を評価すること。本研究の中で行われる基礎的な検討によりブリナツモマブの効果と安全性に関わる免疫学的因子およびALL細胞の特徴について探索する			
医療技術名	難治性精神疾患患者に対するヨーガ療法の効果	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 薬物療法などの通常精神科治療によって改善が困難な精神疾患(不眠や気分障害、神経症など)に対して、ヨーガ療法という簡単なアイソメトリック運動により、「緊張と弛緩」という身体の状態を意識化することを中心とした療法を追加して行う。不安や抑うつ状態、不眠に対して良好な治療成績を得ている。			
医療技術名	消化器がんに対するがん遺伝子パネル検査に基づいた保険適応外抗癌剤による化学療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 がんゲノム医療連携病院として、消化器がん患者に対するがん遺伝子パネル検査の提供を行い、遺伝子変異、ガイドラインに基づいた抗がん剤を選択し、保険適応外である場合、高難度医療・未承認医薬品等管理室の承認を得て治療を行う。			

医療技術名	腹腔鏡下肝切除に対する、術前血管造影下インドシアニングリーン投与による手術ナビゲーションの検討	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要			
腹腔鏡下肝切除の術前、血管造影下で切除予定区域の動脈にインドシアニングリーンを投与し、塞栓することによって、手術ナビゲーションを行う。			
医療技術名	急性期破裂脳動脈瘤に対するステント併用コイル塞栓術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要			
急性期破裂脳動脈瘤に対する治療としてコイル塞栓術単独での治療が困難な症例に対して、通常慢性期や未破裂脳動脈瘤に対してのみ認められているステントを併用することで治療適応の拡大を目指す。			
医療技術名	経静脈的レミフェンタニル投与による和痛分娩	取扱患者数	46人
当該医療技術の概要			
産痛緩和のひとつとして、レミフェンタニルを分娩時に経静脈的に投与する。投与にはIV-PCAポンプを用いて、ロックアウトタイムの設定などを行い安全に行っている。有害事象を認めなかった。			
医療技術名	ケイツーシロップ0.2%の投与	取扱患者数	319人
当該医療技術の概要			
新生児Vit.K欠乏による出血性障害を予防するためにケイツーシロップを出生後計13回の投与を行っている。本投与法は学会の推奨によるものであるが、添付文書で認められていないため未承認薬投与として行っている。			
医療技術名	真菌性眼内炎に対するジフルカン硝子体注射	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要			
真菌性眼内炎はそのほとんどが全身の真菌感染症に続発し、不可逆的な視機能障害をきたす重篤な疾患である。抗真菌薬の全身投与が行われるが、病勢に対しては即効性や効果に乏しいため、直接硝子体内へ投与を行い治療効果を期待するものである。			
医療技術名	サイトメガロウイルス網膜炎に対するデノシン硝子体注射	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
サイトメガロウイルス感染症に伴う合併症に網膜炎があるが、全身の免疫機能が低下していることが多く、網膜炎の進行は急激で、視機能に障害を残す疾患である。全身投与では病勢を止めることができないことがあり、デノシンを直接硝子体内に投与することで病態の改善を図るものである。			
医療技術名	細菌性眼内炎に対するバンコマイシン・セフトラジジム硝子体注射	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要			
細菌性眼内炎は、眼内手術後や全身の細菌感染巣からの2次感染、角膜潰瘍や外傷などによる眼内への細菌の侵入を起点とし、数日で失明に至る重篤な疾患である。バンコマイシンとセフトラジジムの硝子体注射が最優先の治療になり、数日あけて複数回投与を行うことが多い。			
医療技術名	中心性漿液性脈絡網膜炎に対する光線力学療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要			
中心性漿液性脈絡網膜炎は中高年に発症し、漿液性網膜剥離をきたす疾患である。黄斑下に病態が及ぶことが多く、保存的に経過観察を行うことが多い。近年、加齢黄斑変性に対する光線力学療法を応用して治療を行う方法が提示され、治療効果が期待できるようになっている。			
医療技術名	tPAを用いた血腫移動術及び血腫除去術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
網膜下血腫の自然予後は極めて不良であり、早急な治療が必要である。tPAは血腫を溶解させる作用を有しているが、tPAと硝子体内ガス注入の組み合わせ、あるいはtPAを用いた黄斑下手術を行うことにより、良好な治療成績を得ている。			
医療技術名	血管新生緑内障に対するBevacizumab治療	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要			
血管新生緑内障は重篤な網膜疾患に続発して生じる非常に難治性の緑内障である。その治療には光凝固術により網膜疾患の活動性を低下させることが行われているが、重症の場合、光凝固で網膜炎の病勢を止めることができず、眼圧のコントロールができず失明に至ることも少なくない。非常に難治の血管新生緑内障に対して、眼圧をコントロールし、失明回避のため抗VEGF薬 (bevacizumab) を硝子体内に投与し、治療効果を期待する。			
医療技術名	重症の糖尿病網膜症の手術前処置としてのbevacizumab治療	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要			
重症の糖尿病網膜症に対する硝子体手術は眼科手術において最も何度が高い手術の一つである。術中の出血を抑制するために、術前にbevacizumabを硝子体内注射する。本処置により、術中合併症が減少し成績が向上する。			

医療技術名	黄斑円孔網膜剥離に対する内境界膜移動と血液の併用術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 難治性の黄斑円孔網膜剥離に対して、内境界膜フラップを円孔内に挿入し、その受けに自己血液を塗布し、網膜の復位を得る。			
医療技術名	無水エタノールにより血管塞栓術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 無水エタノールは、2000年代から塞栓物質として使用されているものの、諸般の事情により血管内投与は保険収載されていない。2022年度は、腎血管筋脂肪腫の破裂予防に2件、腎嚢胞の廃絶に1件、肝細胞癌術前の健側肝腫大目的の門脈塞栓(PTPE)にリピオドールと混合した無水エタノールを経カテーテル的に動脈または門脈内へ投与し、良好な結果を得た。			
医療技術名	26%塩化カリウム水溶液による透析液カリウム補正	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要 血液透析によって低カリウム血症を引き起こすことがあり、それにより不整脈などの不利益が生じる場合がある。これを予防するため、透析前の血清カリウム値に応じて、必要な症例には26%塩化カリウム水溶液による透析液カリウム補正を行っている。26%塩化カリウム水溶液は院内で精製して滅菌したものを、個人用透析液A液に混入して使用する。			
医療技術名	薬物の治療効果・副作用を規定する遺伝子多型の解析と投与量設計	取扱患者数	348人
当該医療技術の概要 薬物の代謝(分解)に関わる酵素の遺伝子が多型に変異することにより、薬物の効果や副作用の発現に個人差が生じることが知られている。薬剤部では、当該薬物服用患者について、遺伝子多型の測定及び、その結果に基づく投与量設計を行っている(対象:45薬物、9遺伝子多型)。本検査は院内でのコンセンサスを得ており、電子カルテ上よりオーダー可能となっている。			
医療技術名	vNOTESによる腹腔鏡下仙骨腫固定術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 経膈的な腹腔つきょうにより膈と仙骨を縫合し吊り上げる			
医療技術名	ロボット支援下vNOTEによる腹腔鏡下子宮全摘術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 経膈的にロボットを挿入して子宮を摘出する新規技術			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	54
取扱い患者数の合計(人)	1638

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	7	56	ベーチェット病	35
2	筋萎縮性側索硬化症	51	57	特発性拡張型心筋症	48
3	脊髄性筋萎縮症	3	58	肥大型心筋症	3
4	原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症	1
5	進行性核上性麻痺	26	60	再生不良性貧血	16
6	パーキンソン病	207	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	15	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病	2	63	特発性血小板減少性紫斑病	30
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	2
10	シャルコー・マリー・トゥース病	2	65	原発性免疫不全症候群	2
11	重症筋無力症	52	66	IgA 腎症	50
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	32
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	39	68	黄色靱帯骨化症	8
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	28	69	後縦靱帯骨化症	40
15	封入体筋炎	3	70	広範脊柱管狭窄症	7
16	クドウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	50
17	多系統萎縮症	19	72	下垂体性ADH分泌異常症	22
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	48	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	6	74	下垂体性PRL分泌亢進症	6
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	4
21	ミトコンドリア病	15	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	37	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	11
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	60
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
25	進行性多巣性白質脳症	2	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	2	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	8
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	48	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	27
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	37
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	9
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	6
34	神経線維腫症	9	89	リンパ脈管筋腫症	1
35	天疱瘡	19	90	網膜色素変性症	19
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	4	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性胆管炎 旧病名(原発性胆汁性肝硬変)	18
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	3
40	高安動脈炎	6	95	自己免疫性肝炎	12
41	巨細胞性動脈炎	1	96	クローン病	271
42	結節性多発動脈炎	6	97	潰瘍性大腸炎	463
43	顕微鏡的多発血管炎	8	98	好酸球性消化管疾患	5
44	多発血管炎性肉芽腫症	3	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	25	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	2	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	4	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	97	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	64	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	40	106	クリオピリン関連週期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	11	107	若年性特発性関節炎 旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	0
53	シェーグレン症候群	16	108	TNF受容体関連週期性症候群	0
54	成人ステル病	4	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	1	110	ブラウ症候群	0
111	先天性ミオパチー	2	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	17
113	筋ジストロフィー	10	163	特発性後天性全身性無汗症	3
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	2	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	1	167	マルファン症候群	5
118	脊髄髄膜瘤	2	168	エーラス・ダンロス症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	1	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	2
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	1	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	177	ジュベール症候群関連疾患 旧病名(有馬症候群)	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	1
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	1
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	2	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	1	196	ヤング・シン普森症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	2	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	1
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	6
211	左心低形成症候群	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	274	骨形成不全症	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	275	タナトフォリック骨異形成症	0
215	ファロー四徴症	0	276	軟骨無形成症	1
216	両大血管右室起始症	2	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
217	エプスタイン病	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
218	アルポート症候群	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病 変)	0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
220	急速進行性糸球体腎炎	4	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
222	一次性ネフローゼ症候群	26	283	後天性赤芽球癆	2
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
224	紫斑病性腎炎	2	285	ファンconi貧血	0
225	先天性腎性尿崩症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	287	エプスタイン症候群	0
227	オスラー病	4	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	3
228	閉塞性細気管支炎	1	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

230	肺胞低換気症候群	0	291	ヒルシュスブルグ病(全結腸型又は小腸	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	292	総排泄腔外反症	0
232	カーニー複合	0	293	総排泄腔遺残	0
233	ウォルフラム症候群	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
235	副甲状腺機能低下症	0	296	胆道閉鎖症	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	297	アラジール症候群	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	298	遺伝性膀胱炎	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	7	299	嚢胞性線維症	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	300	IgG4関連疾患	6
240	フェニルケトン尿症	4	301	黄斑ジストロフィー	0
241	高チロシン血症1型	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
242	高チロシン血症2型	0	303	アッシュャー症候群	1
243	高チロシン血症3型	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
244	メーブルシロップ尿症	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
245	プロピオン酸血症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	52
246	メチルマロン酸血症	0	307	カナバン病	0
247	イソ吉草酸血症	0	308	進行性白質脳症	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	309	進行性ミオクローヌスてんかん	0
249	グルタル酸血症1型	0	310	先天異常症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	311	先天性三尖弁狭窄症	0
251	尿素サイクル異常症	0	312	先天性僧帽弁狭窄症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	313	先天性肺静脈狭窄症	0
253	先天性葉酸吸収不全	0	314	左肺動脈右肺動脈起始症	0
254	ポルフィリン症	0	315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	1	316	カルニチン回路異常症	0
256	筋型糖原病	0	317	三頭酵素欠損症	0
257	肝型糖原病	0	318	シトリン欠損症	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	1	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
260	システロール血症	0	321	非ケトosis型高グリシン血症	0
261	タンジール病	0	322	β-ケトチオラーゼ欠損症	0
262	原発性高カイロミクロン血症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
263	脳髄黄色腫症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
264	無βリポタンパク血症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
265	脂肪萎縮症	0	326	大理石骨病	0
266	家族性地中海熱	2	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	1
267	高IgD症候群	0	328	前眼部形成異常	0
268	中條・西村症候群	0	329	無虹彩症	0
269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症 旧病名(先天性気管狭窄症)	0
270	慢性再発性多発性骨髄炎	0	331	特発性多中心性キャッスルマン病	6
271	強直性脊椎炎	3	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
			333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
			334	脳クレアチン欠乏症候群	0
			335	ネフロン癆	0
			336	家族性低βリポタンパク血症1 (ホモ接合体)	0
			337	ホモシスチン尿症	0
			338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	118
合計患者数(人)	2438

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
医療DX推進体制整備加算	特定機能病院入院基本料(一般病棟、7対1入院基本料)、入院栄養管理体制加算
特定機能病院入院基本料(精神病棟、7対1入院基本料)	救急医療管理加算
超急性期脳卒中加算	診療録管理体制加算2
医師事務作業補助体制加算1(30対1)	急性期看護補助体制加算(25対1)(看護補助者5割以上)、夜間看護体制加算、夜間急性期看護補助体制加算夜間100対1
看護職員夜間12対1配置加算1	療養環境加算
重症者等療養環境特別加算	無菌治療室管理加算1
無菌治療室管理加算2	放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による治療の場合)
放射線治療病室管理加算(密封小線源による治療の場合)	緩和ケア診療加算
小児緩和ケア診療加算	精神科身体合併症管理加算
精神科リエゾンチーム加算	摂食障害入院医療管理加算
栄養サポートチーム加算	医療安全対策加算1
感染対策向上加算1、指導強化加算、抗菌薬適正使用体制加算	患者サポート体制充実加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	ハイリスク妊娠管理加算
ハイリスク分娩管理加算	呼吸ケアチーム加算
術後疼痛管理チーム加算	後発医薬品使用体制加算2
病棟薬剤業務実施加算1	病棟薬剤業務実施加算2
データ提出加算2	入退院支援加算1、入退院支援加算3、入院時支援加算、地域診療計画加算、総合機能評価加算
医療的ケア児(者)入院前支援加算	認知症ケア加算1
せん妄ハイリスク患者ケア加算	精神疾患診療体制加算
精神科急性期医師配置加算	排尿自立支援加算
地域医療体制確保加算	特定集中治療室管理料1、算定上限日数、小児加算、早期離床・リハビリテーション加算、早期栄養介入管理加算
脳卒中ケアユニット入院医療管理料、早期栄養介入管理加算	総合周産期特定集中治療室管理料(母体・胎児集中治療室管理料)、(新生児集中治療室管理料)
新生児治療回復室入院医療管理料	小児入院医療管理料2、注2に規定する加算(保育士2名以上の場合)、無菌治療管理加算1・2
地域歯科診療支援病院歯科初診料	歯科外来診療医療安全対策加算2

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
ウイルス疾患指導料の注2	外来栄養食事指導料の注3
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	腎代替療法実績加算
喘息治療管理料	糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料	がん性疼痛緩和指導管理料の注2
がん患者指導管理料イ	がん患者指導管理料ロ
がん患者指導管理料ハ	がん患者指導管理料ニ
外来緩和ケア管理料	移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)
糖尿病透析予防指導管理料	乳腺炎重症化予防・ケア指導料
婦人科特定疾患治療管理料	腎代替療法指導管理料
一般不妊治療管理料	生殖補助医療管理料1
下肢創傷処置管理料	慢性腎臓病透析予防指導管理料
夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算1	外来放射線照射診療料
外来腫瘍化学療法診療料1	連携充実加算
ニコチン依存症管理料	療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算
がん治療連携計画策定料	肝炎インターフェロン治療計画料
外来排尿自立指導料	ハイリスク妊産婦連携指導料1
ハイリスク妊産婦連携指導料2	こころの連携指導料(Ⅱ)
薬剤管理指導料	医療機器安全管理料1
医療機器安全管理料2	在宅患者訪問看護・指導料及び 同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する継続血糖測定器を用いる場合)	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない継続血糖測定器を用いる場合)
遺伝学的検査	染色体検査の注2
骨髄微小残存病変量測定	BRCA1/2遺伝子検査
がんゲノムプロファイリング検査	先天性代謝異常症検査

HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV2核酸検出を含まないもの)
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)	検体検査管理加算(IV)
国際標準検査管理加算	遺伝カウンセリング加算
遺伝性腫瘍カウンセリング加算	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
長期継続頭蓋内脳波検査	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
胎児心エコー法	ヘッドアップティルト試験
皮下連続式グルコース測定	光トポグラフィー
終夜睡眠ポリグラフィ(安全精度管理下でおこなうもの)	脳波検査判断料1
単線維筋電図	神経学的検査
補聴器適合検査	ロービジョン検査判断料
コンタクトレンズ検査料1	内服・点滴誘発試験
センチネルリンパ節生検(片側)	経頸静脈的肝生検
CT透視下気管支鏡検査加算	画像診断管理加算4
遠隔画像診断	ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	CT撮影及びMRI撮影
冠動脈CT撮影加算	血流予備量比コンピューター断層撮影
心臓MRI撮影加算	乳房MRI撮影加算
頭部MRI撮影加算	肝エラストグラフィ加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	外来化学療法加算1
無菌製剤処理料	心大血管疾患リハビリテーション料(I)
脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	運動器リハビリテーション料(I)
呼吸器リハビリテーション料(I)	がん患者リハビリテーション料
歯科口腔リハビリテーション料2	リンパ浮腫複合的治療料
児童思春期精神科専門管理加算	療養生活継続支援加算
早期診療体制充実加算	認知療法・認知行動療法1
治療抵抗性統合失調症治療指導管理料	多血小板血漿処置
エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)
人工腎臓	導入期加算2

透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	下肢末梢動脈疾患指導管理加算
難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
ストーマ合併症加算	医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1、時間外加算1、深夜加算1
手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1、時間外加算1、深夜加算1	皮膚悪性腫瘍切除術(皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算)
自家脂肪注入	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)(一次一次的再建・一次二次的再建及び二次再建)
処理骨再建加算	組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)(一次再建・二次再建)
骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
人工股関節置換術(手術支援装置を用いるもの)	後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
椎間板内酵素注入療法	緊急穿頭血腫除去術
脳腫瘍覚醒下マッピング加算	原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算
内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	脳血栓回収療法連携加算
脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	仙骨神経刺激装置植込術、仙骨神経刺激装置交換術(便失禁に対して実施する場合)
仙骨神経刺激装置植込術、仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱に対して実施する場合)	緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	網膜再建術
人工中耳植込術	植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び交換術
経外耳道的内視鏡下鼓室形成術	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)	喉頭形成術(甲状軟骨固定器具を用いたもの)
頭頸部悪性腫瘍光線力学療法	乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの/伴うもの))
乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法	気管支バルブ留置術
肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	胸腔鏡下肺悪性腫瘍術(気管支形成を伴う肺切除)
内視鏡による縫合術・閉鎖術	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
胸腔鏡下弁形成術	胸腔鏡下弁置換術
経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)	経皮的僧帽弁クリップ術
不整脈手術(左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの))	不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの))
経皮的の中隔心筋焼灼術	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術

ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	両心室ペースメーカー移植術及び交換術(心筋電極の場合)
両心室ペースメーカー移植術及び交換術(経静脈電極の場合)	植込型除細動器移植術及び交換術(心筋リードを用いるもの)
植込型除細動器移植術(経静脈リード又は皮下植込型リードを用いるもの)、交換術及び経静脈電極抜去術	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び交換術(心筋電極の場合)
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び交換術(経静脈電極の場合)	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いるもの)	経皮的下肢動脈形成術
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
内視鏡的逆流防止粘膜切除術	腹腔鏡下十二指腸局所切除術 (内視鏡処置を併施するもの)
腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))	腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))
腹腔鏡下胃全摘術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))	腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)	腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
腹腔鏡下腎・尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
生体腎移植術	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
人工尿道括約筋植込・置換術	精巣内精子採取術
精巣温存手術	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	腹腔鏡下仙骨腫固定術
腹腔鏡下仙骨腫固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下子宮癒痕部修復術	胎児胸腔・羊水腔シャント術
無心体双胎焼灼術	胎児輸血術及び臍帯穿刺
体外式膜型人工肺管理料	尿道狭窄グラフト再建術
胃瘻造設時嚥下機能評価加算	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除に限る)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるものに限る)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下肝切除術
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下直腸切除・切断術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

腹腔鏡下腎盂形成手術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下膝式子宮全摘術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮付属器腫瘍摘出術に限る。)	再製造単回使用医療機器使用加算
輸血管管理料Ⅱ	コーディネート体制充実加算
自己生体組織接着剤作成術	自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
同種クリオプレシピテート作成術	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
レーザー機器加算	麻酔管理料(Ⅰ)
麻酔管理料(Ⅱ)	周術期薬剤管理加算
放射線治療専任加算	外来放射線治療加算
高エネルギー放射線治療	1回線量増加加算
強度変調放射線治療(IMRT)	画像誘導放射線治療(IGRT)
体外照射呼吸性移動対策加算	定位放射線治療呼吸移動対策加算
定位放射線治療	保険医療機関間の連携による病理診断
保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製	保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
デジタル病理画像による病理診断	病理診断管理加算2
悪性腫瘍病理組織標本加算	歯科治療時医療管理料
口腔粘膜処置	口腔粘膜血管腫凝固術
歯周組織再生誘導手術	上顎骨形成術(骨移動を伴うものに限る。)(歯科)、 下顎骨形成術(骨移動を伴うものに限る。)(歯科)
広範囲顎骨支持型装置埋入手術	クラウン・ブリッジ維持管理料
CAD/CAM冠	歯科技工士連携加算1
歯科矯正診断料	看護職員処遇改善評価料68
外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)	歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
入院ベースアップ評価料64	精神科退院時共同指導料

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
成熟したヒトiPS細胞由来心筋細胞の開発と創薬への展開	芦原 貴司	情報総合センター	156,000	補 委	日本学術振興会
新規リン脂質定量法を用いた動脈硬化性疾患のリーバーストランスレーショナルリサーチ	森田 真也	薬剤部	1,660,000	補 委	日本学術振興会
原因が同定されていない遺伝性不整脈患者の複雑な遺伝的背景と発症メカニズムの解明	福山 恵	内科学講座(循環器内科)	65,000	補 委	日本学術振興会
原因が同定されていない遺伝性不整脈患者の複雑な遺伝的背景と発症メカニズムの解明	加藤 浩一	循環器内科	65,000	補 委	日本学術振興会
カロリー制限に学ぶ健康寿命延伸への挑戦-未知なるケトン体の生理作用を解明する-	久米 真司	内科学講座(糖尿病内分泌・腎臓内科)	3,120,000	補 委	日本学術振興会
フェーズアテンションネットを用いた弱教師学習による肝臓腫瘍性病変の診断支援	金崎 周造	放射線医学講座	260,000	補 委	日本学術振興会
多機能センシング技術により計測される頭蓋内皮質活動を用いた病態検出システムの開発	塩見 直人	救急集中治療医学講座	390,000	補 委	日本学術振興会
認知機能低下に関する修正可能な因子の特定:マルチモーダルな生体データの利用	角谷 寛	精神医学講座	2,640,000	補 委	日本学術振興会
位相分散解析と不整脈の臨床的可視化手法の統合による慢性心房細動の多角的治療戦略	芦原 貴司	情報総合センター	1,040,000	補 委	日本学術振興会
脳卒中リスク予測のための全身一脳循環代謝の解析システム構築	渡邊 嘉之	放射線医学講座	650,000	補 委	日本学術振興会
孤独感-自殺プロセスに寄与する睡眠問題の特定と認知行動療法による孤独予防効果	角谷 寛	精神医学講座	390,000	補 委	日本学術振興会
新規ミトコンドリア蛋白質の構造異常によるALS病態の解析と評価モデル系の開発	漆谷 真	内科学講座(脳神経内科)	3,380,000	補 委	日本学術振興会

MRIを用いた脳脊髄液・間質液の動態解析	渡邊 嘉之	放射線医学講座	3,460,000	補委	日本学術振興会
糖代謝臓器におけるケトン体代謝の役割—生理機能から糖尿病との関わりまで—	前川 聡	内科学講座(糖尿病内分泌・腎臓内科)	4,160,000	補委	日本学術振興会
RNF213関連血管障害に対するIL-1 β の役割解明と前臨床モデルの創出研究課題	吉田 和道	脳神経外科学講座	650,000	補委	日本学術振興会
舌下免疫療法の発展と有効利用を目指した分子機序解明のための総合的研究	清水 猛史	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	6,240,000	補委	日本学術振興会
アミロイド β の毒性配座に対する特異抗体を用いたADの超早期診断と予防への展開	景山 裕介	病理診断科	1,560,000	補委	日本学術振興会
行動抑制・行動賦活モデルに基づく慢性痛への催眠の作用機序の多面的検証による解明	北川 裕利	麻酔学講座	325,000	補委	日本学術振興会
睡眠覚醒障害の基盤となる霊長類の神経調節機構の同定	角谷 寛	精神医学講座	650,000	補委	日本学術振興会
新しい定量法を用いた微生物由来成分分析システムの開発	清水 智治	医療安全管理部	3,190,000	補委	日本学術振興会
難治癌のリスクと発症・増悪を早期検出する臨床検査法開発と先制プレジジョン医療展開	醍醐 弥太郎	臨床腫瘍学講座	7,930,000	補委	日本学術振興会
骨髄由来プロインスリン陽性細胞と老化細胞の関係性の探索	藤野 和典	救急集中治療医学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
新規バイオアッセイ法を用いたグルカゴン及びグルカゴン関連ペプチドの生理活性の評価	柳町 剛司	内科学講座(糖尿病内分泌内科)	650,000	補委	日本学術振興会
特異的組織標的ペプチドを用いた前立腺癌新規治療法の開発	和田 晃典	泌尿器科	390,000	補委	日本学術振興会
骨形成不全症治療における、間葉系幹細胞の治療効果に関わる機序の検討	出口 真理	女性診療科	650,000	補委	日本学術振興会
弱教師深層学習と計算解剖モデルの統合による肝臓がんの診断支援	金崎 周造	放射線医学講座	195,000	補委	日本学術振興会

Claudin9発現による癌免疫逃避機構の解明	三宅 亨	消化器外科	1,820,000	補委	日本学術振興会
インビトロ、インビボモデルの空間プロテオーム解析による大腸癌肝転移の分子機構解明	谷 眞至	外科学講座(消化器外科)	130,000	補委	日本学術振興会
非小細胞肺癌のがん間質における低酸素応答の解析とがん免疫治療への応用	寺本 晃治	臨床腫瘍学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会
副腎皮質に出現するプロインスリン陽性骨髄由来細胞の役割の解明	松村 一弘	救急集中治療医学講座	910,000	補委	日本学術振興会
標的化技術を用いたグリア間ネットワーク制御によるALSへの治療戦略	寺島 智也	内科学講座(脳神経内科)	780,000	補委	日本学術振興会
精神疾患合併妊産婦を対象とした向精神薬治療を血液胎盤関門や母乳栄養から検討する	藤井 久彌子	精神医学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会
生理的黄疸の中樞神経作用メカニズムの解明	森宗 孝夫	小児科学講座	780,000	補委	日本学術振興会
小児C3腎症におけるC3分解活性は、新規の病勢指標として治療の最適化に寄与するか	澤井 俊宏	小児科	520,000	補委	日本学術振興会
腸内細菌・真菌叢の相互作用に着目した腸線維化進展機序の解明	稲富 理	消化器内科	1,040,000	補委	日本学術振興会
オートファジーに着目した糖尿病性腎臓病治療薬の開発	山原 真子	医師臨床教育センター	780,000	補委	日本学術振興会
膿疱症におけるIL-36カスケードの解明	藤本 徳毅	皮膚科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会
ヒト急性GVHDにおける組織残存レシピアントT細胞の機能と臨床的意義の解明	村田 誠	内科学講座(血液内科)	1,300,000	補委	日本学術振興会
消化管におけるケトン体産生の生理学的意義と2型糖尿病との関連を解明する。	藤田 征弘	内科学講座(糖尿病内分泌・腎臓内科)	194,161	補委	日本学術振興会
消化器癌のリンパ節転移における細網線維芽細胞の意義と機能解析	谷 眞至	外科学講座(消化器外科)	780,000	補委	日本学術振興会

腫瘍新規抗原特異的なT細胞レセプター遺伝子導入T細胞による養子免疫細胞療法の開発	村田 聡	腫瘍センター	910,000	補委	日本学術振興会
肺がん間質線維芽細胞におけるCD271の機能解析と治療への応用	片岡 瑛子	外科学講座(呼吸器外科)	910,000	補委	日本学術振興会
虚血再灌流傷害時の心筋間質サイトカイン濃度上昇に麻酔薬が及ぼす影響	北川 裕利	麻酔学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会
睡眠障害患者に対する睡眠治療は、痛み閾値に影響を与えるか?	伊藤 一樹	麻酔学講座	260,000	補委	日本学術振興会
脳脊髄液の新規流体解析を用いた正常圧水頭症の病態解明	渡邊 嘉之	放射線医学講座	65,000	補委	日本学術振興会
脳脊髄液の新規流体解析を用いた正常圧水頭症の病態解明	野崎 和彦	脳神経外科学講座	65,000	補委	日本学術振興会
悪性神経膠腫のエピゲノム変化に対応した分子標的抗癌剤の開発	椎野 顕彦	脳神経外科	1,040,000	補委	日本学術振興会
脊柱靭帯骨化症に対する新しい骨化抑制療法に向けたエピジェネティクス解析	彌山 峰史	整形外科	1,170,000	補委	日本学術振興会
抗癌標的分子GGCT阻害によるグルタチオン関連分子変動の網羅的解明	影山 進	泌尿器科学講座	780,000	補委	日本学術振興会
代謝型グルタミン酸受容体を介した射精調節の神経回路	馬杉 美和子	泌尿器科学講座	650,000	補委	日本学術振興会
子宮内膜症に対するラクトフェリンに着目した治療法の開発	中村 暁子	女性診療科	1,040,000	補委	日本学術振興会

卵巣明細胞癌に対する機能性ナノ粒子を応用した新規治療法の開発	天野 創	女性診療科	390,000	補 委	日本学術振興会
レセプトデータで明らかにする、母体の疾患および治療と児の長期予後の関連	笠原 恭子	産科学婦人科学講座	650,000	補 委	日本学術振興会
破骨細胞の活性制御による骨リモデリング微小環境の恒常性維持機構	高岡 一樹	歯科口腔外科学講座	361,347	補 委	日本学術振興会
周産期死亡症例のピアレビューによる死亡回避を目指した提言策定とその啓発	越田 繁樹	総合周産期母子医療センター	1,170,000	補 委	日本学術振興会
睡眠呼吸障害対策による労働生産性向上の機構解明	角谷 寛	精神医学講座	65,000	補 委	日本学術振興会
腸内細菌叢(特にAM菌)と肥満・糖尿病外科手術後減量・糖尿病改善効果の関連の解明	山口 剛	総合外科学講座	650,000	補 委	日本学術振興会
位相シンギュラリティに基づく心房細動のダイナミクス変容とロバスト性に関する研究	芦原 貴司	情報総合センター	130,000	補 委	日本学術振興会
リン脂質排出トランスポーターの活性化による関連疾患治療とリン脂質排出機序の解明	池田 義人	薬剤部	1,040,000	補 委	日本学術振興会
レム睡眠行動障害の不快な夢体験に関する神経生理的背景の解明	角 幸頼	精神医学講座	1,560,000	補 委	日本学術振興会
HER2陽性乳癌前臨床モデルでのアブスコパル効果による治療法確立及びその画像評価	青木 健	放射線科	1,560,000	補 委	日本学術振興会
新規タイピング手法を用いたクローン病に関連した大腸菌群の特定とその機能解析	大野 将司	消化器内科	1,560,000	補 委	日本学術振興会
臨床不整脈映像化システムによる非発作性心房細動の駆動メカニズムの解明	坂田 憲祐	内科学講座(循環器内科)	1,430,000	補 委	日本学術振興会
メチオニン制限食による腎保護効果の臨床応用に向けて一ポリアミン代謝に着目して一	山原 康佑	腎臓内科	910,000	補 委	日本学術振興会
細胞内栄養シグナルに着目した慢性腎臓病新規治療標的の探索	桑形 尚吾	腎臓内科	910,000	補 委	日本学術振興会

LPL欠損マウスを用いた慢性腎臓病における脂質代謝異常の役割の解明	佐々木 裕紀	血液浄化部	910,000	補委	日本学術振興会
3次元細胞培養による胃癌術中散布癌細胞の腹膜生着機序の解明と個別化治療への応用	竹林 克士	栄養治療部	910,000	補委	日本学術振興会
敗血症における急速な老化進行の可能性と新たな治療法の探索	加藤 隆之	救急集中治療医学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会
精巣内分泌機能の改善・再構築に向けた基礎および臨床的検討	富田 圭司	泌尿器科	1,430,000	補委	日本学術振興会
ゲノム情報の高速機能診断法の確立と癌プレジジョン医療の開発	醍醐 弥太郎	臨床腫瘍学講座	2,080,000	補委	日本学術振興会
癌性腹水中リンパ球による腹膜播種性転移に対するネオ抗原特異的-免疫細胞療法の開発	小島 正継	外科学講座(消化器外科)	1,040,000	補委	日本学術振興会
アミノアルキル化核酸医薬開発の前臨床モデル実験	茶野 徳宏	臨床検査医学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会
計算解剖学に基づく3次元CT画像からの胃の自動認識と手術ナビゲーションの実現	東口 貴之	外科学講座(消化器・乳腺・小児・一般外科)	390,000	補委	日本学術振興会
バクテリオファージ移植の実用化を目指したIBD腸内真菌叢・ウイルス叢の全容解析	安藤 朗	内科学講座(糖尿病内分泌・腎臓内科)	1,300,000	補委	日本学術振興会
遺伝的背景が不明なカテコラミン誘発多型性心室頻拍患者における遺伝子構造多型の検索	福山 恵	内科学講座(循環器内科)	1,560,000	補委	日本学術振興会
一般日本人男性における呼吸機能追跡と潜在性動脈硬化・認知機能との関連に関する研究	中野 恭幸	内科学講座(呼吸器内科)	1,170,000	補委	日本学術振興会
microRNAによるミトコンドリア機能調節がサルコペニア・認知機能に与える影響	森野 勝太郎	内科学講座(糖尿病内分泌・腎臓内科)	1,430,000	補委	日本学術振興会
ナトリウム利尿ペプチドを用いた非アルコール性脂肪性肝疾患の新規診断治療の開発	市来 智子	総合診療科	1,380,817	補委	日本学術振興会
腹水中エンドトキシン測定による消化器疾患術後の縫合不全の早期診断の探索	松永 隆志	外科学講座(消化器・乳腺・小児・一般外科)	780,000	補委	日本学術振興会

がんの免疫逃避を克服する複合的がん免疫細胞療法の開発	目片 英治	総合外科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
肝臓癌PDXモデルのリン酸化プロテオーム解析による革新的分子治療標的薬の同定	森 治樹	腫瘍センター	1,300,000	補委	日本学術振興会
骨格筋異化因子ミオスタチンを標的とした、肺がんおよびサルコペニアに対する治療開発	川口 庸	呼吸器外科	1,170,000	補委	日本学術振興会
PKD遺伝子異常に伴う脳動脈瘤発生の病態解明	野崎 和彦	脳神経外科学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会
脳内炎症に着目した泌尿器癌悪液質の新規診断・治療法の開発	沖中 勇輝	泌尿器科	780,000	補委	日本学術振興会
妊娠高血圧症候群患者由来の栄養膜幹細胞の樹立と病態モデルの構築	星山 貴子	母子診療科	910,000	補委	日本学術振興会
カニクイザルのSARS-Cov-2感染モデルを利用した嗅覚障害発症機序の解明	清水 志乃	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会
医学系研究における不適合の発生低減に関する研究	倉田 真由美	臨床研究開発センター	260,000	補委	日本学術振興会
糖尿病コホート研究による生命・心血管疾患・腎機能の長期予後および時代効果の解析	横山 宏樹	内科学講座(糖尿病内分泌・腎臓内科)	1,690,000	補委	日本学術振興会
死産症例における胎児発育不全の分析ならびに死産減少のための提言	所 伸介	母子診療科	650,000	補委	日本学術振興会
成人Bリンパ芽球性白血病の予後と間葉系幹細胞のSPARC発現の関連性の解明	岩佐 磨佐紀	内科学講座(血液内科)	1,950,000	補委	日本学術振興会
自閉スペクトラム症における感覚異常が精神症状に与える影響の定量的評価	増田 史	精神科	650,000	補委	日本学術振興会
NASH肝硬変の線維化・発癌に関わる腸内細菌・真菌の網羅的探索	藤本 剛英	内科学講座(消化器内科)	1,300,000	補委	日本学術振興会
膵炎及び膵癌におけるInterleukin-38の解明	今井 隆行	消化器内科	1,820,000	補委	日本学術振興会

慢性閉塞性肺疾患の早期における呼吸筋力測定意義と有用性の確立	松尾 裕美子	内科学講座(呼吸器内科)	2,080,000	補委	日本学術振興会
ポドサイトのミトコンドリアダイナミクスに着目した難治性糖尿病性腎症の病態解明	田川 安都子	腎臓内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
ヒト多能性幹細胞由来膵β細胞に血管内皮細胞、血管組織ならびに神経細胞が与える影響	井田 昌吾	糖尿病内分泌内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
肺がん免疫療法におけるFeNOを用いた非侵襲的リアルタイム治療効果予測法の開発	岡本 圭伍	外科学講座(呼吸器外科)	1,170,000	補委	日本学術振興会
組織拡張器(エキスパンダー)、人工脂肪、脂肪移植を併用した脂肪再生方法の開発	荻野 秀一	形成外科学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会
骨膜欠損創の再生における骨髄由来細胞の役割に関するメカニズムの解明とその応用	越沼 伸也	歯科口腔外科	650,000	補委	日本学術振興会
全スペクトル太陽光型LEDによる生体リズム発振の強化に関する研究	角谷 寛	精神医学講座	910,000	補委	日本学術振興会
胎児発育不全児の神経学的後遺症克服のための新規胎児脳機能評価法の創出	松田 淑恵	女性診療科	1,430,000	補委	日本学術振興会
シミュレーションによる星形成領域の化学進化の多様性の解明	本山 一隆	情報総合センター	1,430,000	補委	日本学術振興会
HDAC阻害剤によるEGFR変異肺癌のICI耐性の克服法の開発	住本 秀敏	臨床腫瘍学講座	2,730,000	補委	日本学術振興会
日中の過度な眠気を客観的に評価する在宅スクリーニング検査の開発	吉村 篤	精神科	1,300,000	補委	日本学術振興会
統合失調症患者の病態及び疾患概念解明を目的としたスフィンゴミエリン合成の検討	尾関 祐二	精神医学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会
頭部MR画像において人工知能画像構成法が脳白質病変評価に及ぼす効果の検討	井藤 隆太	放射線科	910,000	補委	日本学術振興会
人工知能を用いた肺の超高精細CTの高分解能化に関する基礎的研究	北原 均	放射線部	2,470,000	補委	日本学術振興会

人工知能を用いた胃と周囲血管の自動認識によるナビゲーション手術の実現	貝田 佐知子	消化器外科	2,860,000	補委	日本学術振興会
川崎病に合併する心筋炎後の心筋線維化の有無と治療介入の可能性を探る	星野 真介	小児科	1,300,000	補委	日本学術振興会
ヒト化UGT1Aマウスを用いた新生児ビリルビン脳症の解析と予防法についての基礎的研究	丸尾 良浩	小児科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会
新生児低酸素性虚血性脳症に対する新規治療用ペプチドの開発	辻 俊一郎	産科学婦人科学講座(母子)	1,170,000	補委	日本学術振興会
炎症性腸疾患の腸管粘膜局所でのケトン体の機能解析とケトン食の治療効果の基礎検討	西田 淳史	消化器内科	1,950,000	補委	日本学術振興会
QT延長とブルガダ症候群の合併を来すCa ²⁺ チャネル変異の機序解明を目指す研究	加藤 浩一	循環器内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
難治性心房細動のリアルタイム映像化に基づくローター制御機構解明に向けた橋渡し研究	芦原 貴司	情報総合センター	2,210,000	補委	日本学術振興会
ケトン体代謝に着目したSGLT2阻害薬による腎保護予測指標の探索	金崎 雅美	血液浄化部	2,470,000	補委	日本学術振興会
皮膚老化耐性機構の解明と制御	生野 泰彬	皮膚科	1,300,000	補委	日本学術振興会
ランゲルハンス細胞組織球症関連神経変性症の新規診断基準の確立と病態解明	坂本 謙一	小児科	1,170,000	補委	日本学術振興会
手術後の腹腔内脂肪炎症誘導と術期強化インスリン療法の脂肪炎症抑制作用の解明	赤堀 浩也	総合外科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
脳内タウリン代謝からみた慢性疼痛のメカニズムの解明と応用	中西 美保	麻酔科	2,210,000	補委	日本学術振興会
late Na ⁺ 電流に着目した、麻酔薬の病態心における抗不整脈作用に関わる分子基盤の解明	福島 豊	麻酔学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会
多臓器不全における骨髄前駆細胞異常化と骨髄動員の役割の解明	田畑 貴久	救急集中治療医学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会

老化細胞を標的とした放射線誘発性動脈硬化の予防治療法開発	吉田 和道	脳神経外科学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会
RANKシグナルによる骨肉腫肺転移メカニズムの解明と新規分子標的の探索	安藤 厚生	リハビリテーション科	1,300,000	補委	日本学術振興会
羊膜上清及び脂肪由来幹細胞を播種した生体吸収性2層足場材料による機能的尿道再生	上仁 数義	泌尿器科学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会
カニクイザルを用いたがん妊孕における凍結卵巣による妊孕性温存療法の課題解決研究	村上 節	産科学婦人科学講座(女性)	1,950,000	補委	日本学術振興会
アレルギー性鼻炎における多価不飽和脂肪酸代謝物を介した病態解明と治療法への応用	戸嶋 一郎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,820,000	補委	日本学術振興会
抗原特異的IgE抗体の抗原親和性からみた舌下免疫療法の新たな作用機序の解明	中村 圭吾	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,470,000	補委	日本学術振興会
ALSの非運動性生活障害の解明と看護支援方略の構築	漆谷 真	内科学講座(脳神経内科)	39,000	補委	日本学術振興会
臨床放射線看護における先駆的看護実践に関する検討-Action Research法による試み	坂口 桃子	麻酔学講座	130,000	補委	日本学術振興会
術中腹腔内胃がん細胞のヒアルロン酸-CD44 axis 阻害による術後腹膜転移予防法の開発	児玉 泰一	外科学講座(消化器・乳腺・小児・一般外科)	1,430,000	補委	日本学術振興会
アミロイドβオリゴマーの発生時期および過剰リン酸化タウとの相互作用の解析	景山 裕介	病理診断科	1,560,000	補委	日本学術振興会
長時間労働による精神疲労が画像診断業務に与える影響の解明	井上 明星	放射線科	260,000	補委	日本学術振興会
4次元呼吸ダイナミックCTを用いた間質性肺炎の呼吸動態に対する画像解析	仲川 宏昭	内科学講座(呼吸器内科)	1,690,000	補委	日本学術振興会
機械学習を用いた胸部X線画像診断補助ソフトを用いた診断能に関する研究	高木 海	放射線科	2,470,000	補委	日本学術振興会
本邦におけるアンダーセンタイル症候群の追跡研究	藤居 祐介	循環器内科	1,430,000	補委	日本学術振興会

肝臓におけるO-GlcNAc修飾の役割の解明と新規糖尿病治療標的の探索	村田 幸一郎	内科学講座(糖尿病内内分泌内科)	1,690,000	補委	日本学術振興会
膵癌術後再発の原因となるがん細胞の同定と転移機能解析	徳田 彩	外科学講座(消化器・乳腺・小児・一般外科)	1,560,000	補委	日本学術振興会
膵癌における癌関連線維芽細胞の活性化と代謝変化に及ぼす低酸素環境の影響	前平 博充	外科学講座(消化器外科)	1,170,000	補委	日本学術振興会
多臓器に出現するサイトケラチン7陽性管状構造が臓器不全に及ぼす影響の解明	加藤 文崇	救急・集中治療部	1,040,000	補委	日本学術振興会
多能性幹細胞由来腎オルガノイドを用いた移植可能な腎代替組織の作成	小林 憲市	泌尿器科	2,990,000	補委	日本学術振興会
子宮内胎児発育不全児の予後を予測する新規羊水バイオマーカーの確立	桂 大輔	母子診療科	1,950,000	補委	日本学術振興会
ポリグリセロール修飾ナノ粒子を用いた新生児低酸素性虚血性脳症の新たな治療戦略	吉野 芙美	産科学婦人科学講座	2,210,000	補委	日本学術振興会
胎児発育不全に対するナノ粒子を用いた神経学的後遺症克服のための新たな治療戦略	林 香里	産科学婦人科学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会
好酸球性鼻副鼻腔炎におけるTh2型tissue resident memory T細胞の役割	松本 晃治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,210,000	補委	日本学術振興会
日本人女性の体組成(内臓脂肪、皮下脂肪、骨格筋量)と腸内細菌叢に関する疫学的検討	大橋 瑞紀	母子診療科	1,560,000	補委	日本学術振興会
癌モデルザルの作製とiPS細胞から再生したT細胞を用いた癌免疫療法への応用	佐野 友亮	先端がん研究センター	1,430,000	補委	日本学術振興会
希少なマイナーイントロンが制御する遺伝子発現調節機構と進化・発がんの神秘の解明	雑賀 渉	血液内科	1,000,000	補委	日本学術振興会
小児から成人期発症遺伝性QT延長症候群とその類縁疾患の突然死予防に関する研究	加藤 浩一	循環器内科	300,000	補委	厚生労働省
スモンに関する調査研究	山川 勇	脳神経内科	500,000	補委	厚生労働省

適切な睡眠・休養促進に寄与する「新・健康づくりのための睡眠指針」と連動した行動・習慣改善ツール開発及び環境整備	角谷 寛	精神医学講座	150,000	補 委	厚生労働省
痛みセンターを中心とした慢性疼痛診療システムの均てん化と診療データベースの活用による医療向上を目指す研究	北川 裕利	麻酔学講座	200,000	補 委	厚生労働省
遺伝性骨髄不全症の登録システムの構築と診断基準・重症度分類・診断ガイドラインの確立に関する研究	多賀 崇	小児科学講座	500,000	補 委	厚生労働省
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	森 幹士	整形外科学講座	250,000	補 委	厚生労働省
就労制限を来した慢性疼痛患者の就労支援に寄与する多角的包括的研究	北川 裕利	麻酔学講座	200,000	補 委	厚生労働省
早産児ビリルビン脳症のリスク因子に着目した診療指針の改訂と包括的診療体制の確立	丸尾 良浩	小児科学講座	400,000	補 委	厚生労働省
効率的でドナーの負担軽減に資する末梢血幹細胞採取法の確立と非血縁者間末梢血幹細胞移植の治療成績向上のための研究	村田 誠	内科学講座(血液内科)	200,000	補 委	厚生労働省
バイクロット®配合静注用使用成績調査	岩佐 磨佐紀	内科学講座(血液内科)	31,460	補 委	一般社団法人日本血液製剤機構
ケトン体を用いた糖尿病併発症への予防・治療法の開発	久米 真司	内科学講座(糖尿内分泌・腎臓内科)	13,000,000	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
PD-L1 高発現を伴うEGFR 遺伝子エクソン19 欠失変異陽性進行・再発非小細胞肺癌に対するラムシルマブとエルロチニブ併用療法の有効性と安全性に関する第 II 相試験(SPIRAL-3D)	内田 泰樹	呼吸器内科	220,000	補 委	一般社団法人九州臨床研究支援センター
電子カルテ情報活用型多施設症例データベースを利用した糖尿病に関する臨床情報収集に関する研究(J-DREAMS)	藤田 征弘	糖尿病内分泌内科	300,000	補 委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター
頸椎由来の頸肩腕症状に対する薬物治療の臨床経済研究	森 幹士	整形外科学講座	30,000	補 委	一般社団法人日本脊椎脊髄病学会
ダウン症合併骨髄性白血病に対する標準的治療法の確立	多賀 崇	小児科学講座	11,830,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

小児および若年成人のEBウイルス関連血球貪食性リンパ組織球症 (EBV-HLH)に対する新規標準治療の確立	坂本 謙一	小児科	5,616,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
睡眠ポリグラフデータバンクの拡充およびこれを活用した睡眠障害・精神神経疾患の病態解明と生理学的診断マーカー・治療法開発	角谷 寛	精神医学講座	530,000	補 委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
小児および成人組織球症に対する晩期合併症阻止を目指した新規治療法と長期フォローアップの研究開発	坂本 謙一	小児科	130,000	補 委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
組織球症に続発する中枢神経変性症の診断・治療エビデンスの創出	坂本 謙一	小児科	195,000	補 委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
AI技術を使用した未破裂脳動脈瘤増大破裂予測システムの構築と実用化を目指した多施設共同研究	吉田 和道	脳神経外科学講座	2,600,000	補 委	国立研究開発法人国立循環器病研究センター
カテコラミン誘発多形性心室頻拍の早期診断と突然死予防に関する研究：JROAD-DPCを用いた全国調査と予後	加藤 浩一	循環器内科	1,560,000	補 委	国立研究開発法人国立循環器病研究センター
こころとカラダのライフデザイン共創拠点(若手研究ファンド)	大橋 瑞紀	母子診療科	1,001,000	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
小児慢性特定疾病児童等交流会等事業に関する研究	松井 克之	小児科	500,000	補 委	滋賀県
湖東圏域における発達障害に関する調査及び支援事業	竹内 義博	小児科学講座 (小児発達支援学部部門)	9,800,000	補 委	湖東圏域(愛荘町、多賀町、甲良町、豊郷町)代表豊郷町
令和5年度循環病医療連携推進事業補助金	鈴木 友彰	外科学講座(心臓血管外科)	1,380,000	補 委	滋賀県
がん患者等の妊孕性温存のための相談支援普及啓発に関する研究	村上 節	産科学婦人科学講座 (母子)	700,000	補 委	滋賀県
令和5年度心不全在宅療養支援体制整備事業補助金	八木 典章	循環器内科	1,500,000	補 委	滋賀県
慢性腎臓病医療連携推進研究事業	久米 真司	糖尿病内分泌・腎臓内科	1,000,000	補 委	滋賀県

滋賀県先天性代謝異常等 検査精密検査事業	丸尾 良浩	小児科学講座	5,000,000	補 委	滋賀県
令和5年度助産師キャリア アップ応援事業	多川 晴美	看護臨床教育セン ター	1,940,000	補 委	滋賀県
神経発達症・児童思春期 に対する一次医療体制強 化事業	丸尾 良浩	小児科学講座	15,357,000	補 委	滋賀県
令和5年度HIV感染者等 保健福祉相談事業	村田 誠	内科学講座(血液内 科)	675,000	補 委	公益財団法人エ イズ予防財団
不妊症患者の実態と生殖 補助医療技術による妊孕 性の向上に関する研究	村上 節	産科学婦人科学講座	5,000,000	補 委	滋賀県
滋賀県うつ病医療体制強 化事業専門医等うつ病治 療向上研修事業	尾関 祐二	精神医学講座	1,000,000	補 委	滋賀県
周産期医療にかかる緊急 搬送業務の円滑な実施に 関する研究	越田 繁樹	総合周産期母子医療 センター	500,000	補 委	滋賀県

計182件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Enomoto K., Sasaki J.	ペインクリニック科	Relationship between perfectionism, overactivity, pain severity, and pain interference in individuals with chronic pain: A cross-lagged panel model analysis	Scandinavian Journal of Pain. 2024.01; 24(1): 20230087	Original Articles
2	Shibukawa T., Fujiyoshi A., Moniruzzaman M., et al.	リハビリテーション部	Association of step counts with cognitive function in apparently healthy middle-aged and older Japanese men	Preventive Medicine Reports. 2024.01; 38: 102615	Original Articles
3	Enomoto M., Takashima N., Kamiya K., et al.	外科(心臓血管・呼吸器)	Surgical repair for primary tricuspid regurgitation related to trauma	Journal of Cardiology Cases. 2024.03; 29(6): 251-253	Original Articles
4	Hanaoka J., Hayashi K., Shiratori T., et al.	外科学講座(呼吸器外科)	Relationship between pulmonary blood flow and volume following lung resection using dynamic perfusion digital radiography	Journal of Thoracic Disease. 2023.10; 15(10): 5593-5604	Original Articles
5	Kataoka Y., Fujita T., Fukunaga K., et al.	外科学講座(呼吸器外科)	A case of primary lung cancer requiring differentiation from metastatic cervical cancer	Respirology Case Reports. 2023.07(オンライン); 11(9): e01196	Original Articles
6	Hanaoka J.	外科学講座(呼吸器外科)	Future expectations for respiratory disease assessment in dynamic chest radiography	Journal of Thoracic Disease. 2023.12; 15(12): 7159-7161	Original Articles
7	Okamoto K., Shiratori T., Kawaguchi Y., et al.	外科学講座(呼吸器外科)	A comparative analysis of segmentectomy-aswere medicated withinsociated factors influencing bronchial tortuosity in early-stage left upper lung cancer	General Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2023.06; 71(6): 363-368	Original Articles
8	Maehira H., Iida H., Mori H., et al.	外科学講座(消化器外科)	Clinical impact of postoperative malnutrition after pancreaticoduodenectomy: prediction based on estimated functional remnant pancreatic volume, prognostic nutritional index, and body mass index	HPB. 2023.09; 25(9): 1102-1109	Original Articles

9	Maehira H., Iida H., Mori H., et al.	外科学講座(消化器外科)	Preoperative Predictive Nomogram Based on Alanine Aminotransferase, Prothrombin Time Activity, and Remnant Liver Proportion (APART Score) to Predict Post-Hepatectomy Liver Failure	European Surgical Research. 2023.06; 64(2): 220-229	Original Articles
10	Obata S., Matsumoto R., Iwasa M., et al.	眼科	Visual field after anti-vascular endothelial growth factor therapy and laser treatment for retinopathy of prematurity	Graefe's Archive for Clinical and Experimental Ophthalmology. 2023.11; 261(11): 3207-3213	Original Articles
11	Obata S., Sawada O., Kakinoki M., et al.	眼科	Effects of internal limiting membrane peeling on anatomical and functional outcomes in macula-off rhegmatogenous retinal detachment complicated by proliferative vitreoretinopathy:	Japanese Journal of Ophthalmology. 2023.07; 67(4): 417-423	Original Articles
12	Obata S., Matsumoto R., Kakinoki M., et al.	眼科	Association between treatment for retinopathy of prematurity and blood monocyte counts	Japanese Journal of Ophthalmology. 2023.07; 67(4): 382-386	Original Articles
13	Obata S., Kakinoki M., Sawada O., et al.	眼科	Duration of Vascular Endothelial Growth Factor Suppression After Intravitreal Injection of Brolucizumab and Aflibercept in Macaque Eyes	Journal of Ocular Pharmacology and Therapeutics. 2023.04; 39(3): 225-228	Original Articles
14	Obata S., Matsumoto R., Kakinoki M., et al.	眼科	Blood neutrophil-to-lymphocyte ratio as a risk factor in treatment for retinopathy of prematurity	Graefe's Archive for Clinical and Experimental Ophthalmology. 2023.04; 261(4): 951-957	Original Articles
15	Masumitsu A., Hitosugi M., Baba M., et al.	救急・集中治療部	Predictive Factors of the Fatality of Motor Vehicle Passengers Involved in Far-Side Lateral Collisions: A National Crash Database Study	Healthcare (Switzerland). 2023.05; 11(10): 1496	Original Articles
16	Ogino S., Yamada A., Nakano T., et al.	形成外科学講座	Long term observation of de novo adipogenesis using novel bioabsorbable implants with larger size in a porcine model	Regenerative Therapy. 2023.08; 24: 324-331	Original Articles
17	Okano J., Katagi M., Nakagawa T., et al.	形成外科学講座	Impaired circadian rhythm may disturb epithelialization in the wound healing of the skin in diabetic mice	Journal of Dermatological Science. 2023.04; 110(1): 31-34	Letter
18	Asai-Nishishita A., Kawahara M., Tatsumi G., et al.	血液内科	FUS-ERG induces late-onset azacitidine resistance in acute myeloid leukaemia cells	Scientific Reports. 2023.09(オンライン); 13(1): 14454	Original Articles

19	Nagai S., Kitahara T., Kito K., et al.	血液内科	HIV/AIDS knowledge level, awareness of public health centers and related factors: a cross-sectional study among Brazilians in Japan	BMC Public Health. 2023.11(オンライン); 23(1): 2379	Original Articles
20	Kishita M., Matsumura Y., Yamamoto M., et al.	検査部	Increase in the frequency of community-acquired methicillin-resistant Staphylococcus aureus clones among inpatients of acute care hospitals in the Kyoto and Shiga regions, Japan	Journal of Infection and Chemotherapy. 2023.05; 29(5): 458-463	Original Articles
21	Kawaguchi Y., Watanabe A., Shiratori T., et al.	呼吸器外科	Myostatin expression in lung cancer induces sarcopenia and promotes cancer progression	General Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2023.08; 72(4): 232-239	Original Articles
22	Kawaguchi Y.	呼吸器外科	The process to overcome lung cancer sarcopenia	Journal of Thoracic Disease. 2023.04; 15(4): 1530-1532	Others
23	Kawaguchi Y., Ohshio Y., Watanabe A., et al.	呼吸器外科	Depletion of tumor-associated macrophages inhibits lung cancer growth and enhances the antitumor effect of cisplatin	Cancer Science. 2023.05; 114(3): 750-763	Original Articles
24	Yamazaki A., Kinose D., Kawashima S., et al.	呼吸器内科	Predictors of longitudinal changes in body weight, muscle and fat in patients with and ever-smokers at risk of COPD	Respirology. 2023.09; 28(9): 851-859	Original Articles
25	Yokoe S., Kinose D., Ueki Y., et al.	呼吸器内科	Autobullectomy with COVID- 19 in a patient with chronic obstructive pulmonary disease	Respiratory Medicine Case Reports. 2023.07; 44: 101880	Original Articles
26	Matsuo Y, Ogawa E, Tsunoda Y, et al.	呼吸器内科	Inspiratory and Expiratory Computed Tomography Imaging Clusters Reflect Functional Characteristics in Chronic Obstructive Pulmonary Disease	Int J Chron Obstruct Pulmon Dis. 2023 Jun 6:18:1047-1055.	Original Articles
27	Kawashima S, Kinose D, Arima H, et al.	呼吸器内科	Association of gut microbiome with COPD in Japanese male residents: the SESSA study	ERJ Open Res. 2024 Feb 26;10(1):00788-2023.	Original Articles
28	Kimura H, Yamamoto Y, Yabuuchi Y, et al.	光学医療診療部	Gel immersion endoscopic mucosal resection for early gastric neoplasms: a multicenter case series study	Endosc Int Open. 2024.03(オンライン); 12(3): E435-E439	Original Articles

29	Tsuji S., Nobuta Y., Hanada T., et al.	産科学婦人科学講座(母子)	Prevalence, definition, and etiology of cesarean scar defect and treatment of cesarean scar disorder: A narrative review	Reproductive Medicine and Biology. 2023.08(オンライン); 22(1): e12532	Review
30	Tsuji S., Mukai T., Tsuchiya H., et al.	産科学婦人科学講座(母子)	Impact of administering umbilical cord-derived mesenchymal stem cells to cynomolgus monkeys with endometriosis	Reproductive Medicine and Biology. 2023.09(オンライン); 22(1): e12540	Original Articles
31	Tsuji S., Nobuta Y., Yoneoka Y., et al.	産科学婦人科学講座(母子)	Indication Criteria of Hysteroscopic Surgery for Secondary Infertility due to Symptomatic Cesarean Scar Defect Based on Clinical Outcomes: A Retrospective Cohort Study	Journal of Minimally Invasive Gynecology. 2023.07; 30(7): 576-581	Original Articles
32	Machida Y., Tomioaka T., Koshinuma S., et al.	歯科口腔外科	Factors predicting oral and maxillofacial fractures after falling and factors predicting the duration of treatment	Dental Traumatology. 2023.10; 39(5): 418-424	Original Articles
33	Murao T., Kouzaki H., Arai H., et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Increase in the prevalence of follicular regulatory T cells correlates with clinical efficacy of sublingual immunotherapy with house dust mites	International Forum of Allergy and Rhinology. 2024.01; 14(1): 57-67	Original Articles
34	Nakamura K., Kouzaki H., Murao T., et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Sublingual immunotherapy decreases the avidity of antigen-specific IgE in patients with Japanese cedar pollinosis	Allergy: European Journal of Allergy and Clinical Immunology. 2023.12; 78(12): 3268-3271	Letter
35	Tojima I., Murao T., Kawakita K., et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	A decreased prevalence of group 2 innate lymphoid cells in blood is associated with good postoperative outcomes in patients with chronic rhinosinusitis	Auris Nasus Larynx. 2023.08; 50(4): 540-549	Original Articles
36	Tojima I., Murao T., Nakamura K., et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Increased blood group 2 innate lymphoid cells are associated with the clinical severity of Kimura disease	Allergology International. 2023.04; 72(2): 339-342	Letter
37	Inoue M., Mizuno T., Kitagawa H.	手術部	Thromboelastography May Overestimate Fibrinogen Contribution to Clot Firmness in the Presence of a High Platelet Count	Journal of Cardiothoracic and Vascular Anesthesia. 2024.01; 38(1): 349-	Letter
38	Inoue M, Shimizu M, Okamoto H, et al.	手術部	An Unexpected Free-Floating Aortic Valve Leaflet Avulsion in the Left Atrium on Transesophageal Echocardiography During Transcatheter Aortic Valve Implantation Under	CASE (Phila). 2023.04; 7(4): 129-133	Case Report

39	Okamoto H., Ozawa T., Suzuki T., et al.	循環器内科	The two therapeutic strategies of surgical intervention and medical management in a patient with enhanced-fibrinolytic type of disseminated intravascular coagulation after aortic replacement for Stanford	BMC Cardiovascular Disorders. 2024.01(オンライン); 24(1): 78	Original Articles
40	Kodama K., Soga Y., Tomoi Y., et al.	循環器内科	Difference in one-year late lumen loss between high- and low-dose paclitaxel-coated balloons for femoropopliteal disease	Heart and Vessels. 2024.02; 39(7): 582-588	Original Articles
41	Higo Y., Hisamatsu T., Nakagawa Y., et al.	循環器内科	Association of Anthropometric and CT-Based Obesity Indices with Subclinical Atherosclerosis	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis. 2024.01; 31(1): 48-60	Original Articles
42	Higo Y., Sawayama Y., Takashima N., et al.	循環器内科	Epidemiology of Acute Aortic Dissection in a General Population of 1.4 Million People in Japan — Shiga Stroke and Heart Attack Registry —	Circulation Journal. 2023.08; 87(9): 1155-1161	Original Articles
43	Okamoto H., Miyake M., Hayashi A., et al.	循環器内科	Differences in clinical and echocardiographic features and outcomes between atrial functional mitral regurgitation patients with and without posterior mitral leaflet bending	Journal of Cardiology. 2023.07; 82(1): 22-28	Original Articles
44	Koyama S, Sawayama Y., Asada K, et al.	循環器内科	FFR-CT is extremely useful in detecting hemodynamically significant left-main coronary artery stenosis with right coronary artery hypoplasia.	J Journal of Cardiology. A case report. 2023.06; 28(2): 64-67.	Case report
45	Tanaka Y., Amano T., Nakata M., et al.	女性診療科	Cases of pleural effusion possibly due to clinical pleuroperitoneal communication in the perioperative period of emergency gynecologic surgery: Case series and literature review	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research. 2024.01; 50(4): 734-739	Original Articles
46	Kawashima M., Hisamatsu T., Harada A., et al.	女性診療科	Relationship Between Hemoglobin Concentration and Cardiovascular Disease Mortality in a 25-Year Follow-up Study of a Japanese General Population — NIPPON DATA90 —	Circulation Journal. 2024.02; 88(5): 742-750	Original Articles
47	Tanaka Y., Amano T., Takahashi A., et al.	女性診療科	Locally advanced endometrial cancer with multiple immune-related adverse events coinciding with the complete response to radiotherapy after immune checkpoint inhibitor therapy: A case report	Gynecologic Oncology Reports. 2023.09; 49: 101265	Case Report
48	Yoneoka Y., Amano T., Tsuji S., et al.	女性診療科	The efficacy of adjuvant chemotherapy on the survival of early stage endometrial cancer	European Journal of Obstetrics and Gynecology and Reproductive Biology. 2023.08; 287: 155-160	Original Articles

49	Sakamoto K., Morimoto A., Shioda Y., et al.	小児科	Relapses of multisystem/multifocal bone Langerhans cell histiocytosis in paediatric patients: Data analysis from the JLSG-96/02 study	British Journal of Haematology. 2023.05; 200(6): 769-775	Original Articles
50	Sakamoto K., Fujimori K., Miyazaki O., et al.	小児科	Inclusion of thymic Langerhans cell histiocytosis in the "5 Ts" of the differential diagnosis of anterior mediastinal mass	International Journal of Hematology. 2023.05; 117(3): 311-313	Others
51	Tagawa K., Maruo Y., Mimura Y., et al.	小児科	Effects of common genetic variants of human uridine diphosphate glucuronosyltransferase subfamilies on irinotecan glucuronidation	Toxicology Mechanisms and Methods. 2023.05; 33(3): 197-205	Original Articles
52	Tanioka A, Matsukawa Y, Sakamoto K, et al.	小児科	Challenges in the management of Turner syndrome with Y chromosome material: a case report of prophylactic gonadectomy revealing dysgerminoma	Int Cancer Conf J. 2024.01; 13(2): 108-110.	Case Report
53	Tagawa K, Matsui K, Tsukamura A, et al.	小児科	Use of a long-term continuous glucose monitor for predicting sulfonylurea dose in patients with neonatal diabetes mellitus: a case series	Clin Pediatr Endocrinol. 2024.02; 33(3): 131-138.	Case Report
54	Takano T., Ito M.	小児科学講座	An extensive basal ganglia hemorrhage in a preexisting neonatal asphyxiated lesion after mRNA-based SARS-CoV-2 vaccination: A fatal adult case of cerebral palsy	Brain Hemorrhages. 2024.02; 5(1): 38-41	Original Articles
55	Takano T.	小児科学講座	Cardiometabolic Effects of Antipsychotics in Challenging Behavior and Neuropsychiatric Symptoms in Patients With Intellectual Disability	Cureus. 2023.11(オンライン); 15(11): e48088	Original Articles
56	Iida H., Maehira H., Kaida S., et al.	消化器外科	Randomized controlled trial of olanexidine gluconate and povidone iodine for surgical site infection after gastrointestinal surgery	Annals of Gastroenterological Surgery. 2023.9; 8(2): 332-341	Original Articles
57	Nitta N., Maehira H., Ishikawa H., et al.	消化器外科	Postoperative computed tomography findings predict re-drainage cases after early drain removal in pancreaticoduodenectomy	Langenbeck's Archives of Surgery. 2023.11; 408(1): 427	Original Articles
58	Iida H., Maehira H., Mori H., et al.	消化器外科	Effect of early administration of tolvaptan on pleural effusion post-hepatectomy	Langenbeck's Archives of Surgery. 2023.10; 408(1): 406	Original Articles

59	Iida H., Kaibori M., Maehira H., et al.	消化器外科	Colonization of the gastric juice by <i>Candida</i> spp. promotes surgical site infection after hepatectomy	Langenbeck's Archives of Surgery. 2023.06; 408(1): 240	Original Articles
60	Iida H., Maehira H., Mori H., et al.	消化器外科	Preoperative Physical Activity Level Measurement by Accelerometer for Predicting Post-Hepatectomy Complications: A Prospective Observational Study	European Surgical Research. 2023.06; 64(2): 193-200	Original Articles
61	Iida H., Maehira H., Maekawa T., et al.	消化器外科	Effect of the Gastrojejunostomy Position on the Postoperative Amount of Oral Intake in Pancreaticoduodenectomy	European Surgical Research. 2023.06; 64(2): 211-219	Original Articles
62	Sihombing AM., Murata S., Shimoji M., et al.	外科学講座(消化器外科)	CD44-positive Cancer Stem-like Cells as a Potential Source of Peritoneal Metastasis After Surgery	Anticancer Res.2023.06; 43(6): 2491-2500	Original Article
63	Yokota Y., Imai T., Kawahara M., et al.	消化器内科	Thiopurines exert harmful effects on spermatogenesis in Nudt15 R138C knock-in mice	Journal of Gastroenterology. 2024.02; 59(2): 109-118	Original Articles
64	Shintani S., Inatomi O., Hiroe K., et al.	消化器内科	The diagnostic accuracy of endoscopic ultrasound-shear wave elastography in multiple pancreatic regions for chronic pancreatitis based on the Rosemont criteria	Journal of Medical Ultrasonics. 2023.10; 50(4): 485-492	Original Articles
65	Inatomi O., Katayama M., Soga K., et al.	消化器内科	Application and usefulness of a new eight-wire basket catheter for endoscopic extraction of small common bile duct stones: A retrospective multicenter study	DEN Open. 2023.04(オンライン); 3(1): e138	Original Articles
66	Ohno M., Nishida A., Nishino K., et al.	消化器内科	Palliative stenting for malignant colorectal stenosis in the elderly	DEN Open. 2023.04(オンライン); 3(1): e168	Original Articles
67	Shintani S., Inatomi O., Bamba S., et al.	消化器内科	Bile duct penetrating duodenal wall sign: a novel computed tomography finding of common bile duct stone impaction into duodenal major papilla	Japanese Journal of Radiology. 2023.08; 41(8): 854-862	Original Articles
68	Hachiro K., Takashima N., Suzuki T.	心臓血管外科	Later aorta operation after aortic valve replacement for bicuspid aortic valve	Journal of Cardiothoracic Surgery. 2024.03; 19(1): 144	Original Articles

69	Hachiro K., Takashima N., Suzuki T.	心臓血管外科	Off-pump bilateral internal thoracic artery grafting in patients with left main coronary artery disease	Journal of Cardiothoracic Surgery. 2024.02; 19(1): 81	Original Articles
70	Tsuruta H., Yamahara K., Yasuda- Yamahara M., et al.	腎臓内科	Emerging Pathophysiological Roles of Ketone Bodies	Physiology. 2024.01; 39(3): -	Review
71	Tsuruta H., Yasuda- Yamahara M., Yoshihayashi M., et al.	腎臓内科	Fructose overconsumption accelerates renal dysfunction with aberrant glomerular endothelial-mesangial cell interactions in db/db mice	Biochimica et Biophysica Acta – Molecular Basis of Disease. 2024.02; 1870(4): 167074	Original Articles
72	Imamura- Uehara Y., Yasuda- Yamahara M., Kuwigata S., et al.	腎臓内科	Establishment of a novel mouse model of renal artery coiling-based chronic hypoperfusion-related kidney injury	Biochemistry and Biophysics Reports. 2023.12; 37: 101607	Original Articles
73	Uemura R., Kumagai K., Kubo M., et al.	整形外科	Knee joint synovial hemangioma treated with arthroscopic resection without hemarthrosis: A case report	International Journal of Surgery Case Reports. 2024.02; 116: 109352	Case Report
74	Takemura Y., Kodama N., Ando K., et al.	整形外科	Shoulder reconstruction following coracoid chondrosarcoma using liquid nitrogen-treated tumor-bearing bone combined with a vascularized iliac bone graft: A case report	Journal of Orthopaedic Science. 2023.07; 28(4): 942-948	Case Report
75	Mori K., Takahashi J., Oba H., et al.	整形外科科学講座	Reciprocal Change of Cervical Spine after Posterior Spinal Fusion for Lenke Type 1 and 2 Adolescent Idiopathic Scoliosis	Journal of Clinical Medicine. 2023.08; 12(17): 5599	Original Articles
76	Saito H., Yayama T., Mori K., et al.	整形外科科学講座	Increased Cellular Expression of Interleukin-6 in Patients With Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament	Spine. 2023.05(オンライン); 48(6): E78-E86	Original Articles
77	Imai S.	整形外科科学講座	Restoration of External Rotation by Sequential Glenoid Lateralization Based on Body Size in Reverse Shoulder Arthroplasty	JBJS Open Access. 2023.04(オンライン); 8(2): e22.00094	Original Articles
78	Fujii K., Tsuji S., Ono M., et al.	精神医学講座	Management of Pregnant Women with Mental Disorders Requires Attention to Gestational Diabetes Mellitus	Women's Health Reports. 2024.02; 5(1): 170-177	Original Articles

79	Kuimoto N., O'higashi T., Kadotani H., et al.	精神医学講座	Electroconvulsive Therapy Anesthesia Without Raising the Convulsive Threshold With Dexmedetomidine and Remifentanyl	Journal of ECT. 2023.06; 39(2): 117-118	Letter
80	Sumi Y., Kawahara S., Fujii K., et al.	精神医学講座	Case report: Impact of hyperthyroidism on psychotic symptoms in schizophrenia comorbid with Graves' disease	Frontiers in Psychiatry. 2023.07(オンライン); 14: 1219049	Case Report
81	Koshida S., Takahashi K.	総合周産期母子医療センター	Significant improvement in survival outcomes of trisomy 18 with neonatal intensive care compared to non-intensive care: a single-center study	PeerJ. 2023.11(オンライン); 11: e16537	Original Articles
82	Nakamoto A., Ohashi N., Sugawara L., et al.	糖尿病内分泌内科	O-linked N-acetylglucosamine modification is essential for physiological adipose expansion induced by high-fat feeding	American Journal of Physiology - Endocrinology and Metabolism. 2023.07(オンライン); 325(1): E46-E61	Original Articles
83	Fukuyama M., Horie M., Kato K., et al.	内科学講座(循環器内科)	Calmodulinopathy in Japanese Children — Their Cardiac Phenotypes Are Severe and Show Early Onset in Fetal Life and Infancy	Circulation Journal. 2023.11; 87(12): 1828-1835	Original Articles
84	Morita Y., Kimura H., Inatomi O., et al.	内科学講座(消化器内科)	A case of early gastric cancer with metastatic recurrence following curative endoscopic submucosal dissection	DEN Open. 2023.12; 4(1): e326	Original Articles
85	Yamahara K., Yasuda- Yamahara M., Kume S.	内科学講座(腎臓内科)	A novel therapeutic target for kidney diseases: Lessons learned from starvation response	Pharmacology and Therapeutics. 2024.02; 254: 108590	Review
86	Yamahara K., Yasuda- Yamahara M., Ku wagata S., et al.	内科学講座(腎臓内科)	Ketone Body Metabolism in Diabetic Kidney Disease	Kidney360. 2024.02; 5(2): 320-326	Review
87	Ugi S., Yonishi M., Sato D., et al.	内科学講座(糖尿病内分泌・腎臓内科)	Coexistence of Pheochromocytoma and Primary Aldosteronism due to Multiple Aldosterone-producing Micronodules in the Ipsilateral Adrenal Gland	Internal Medicine. 2023.09; 62(18): 2685-2691	Original Articles
88	Urushitani M., Nakamura R.	内科学講座(脳神経内科)	Hypermetabolism in Amyotrophic Lateral Sclerosis: Step Ahead Toward Global Consensus	Neurology. 2024.02(オンライン); 102(5): e209179-	Others

89	Urushitani M., Warita H., Atsuta N., et al.	内科学講座(脳神経内科)	The clinical practice guideline for the management of amyotrophic lateral sclerosis in Japan—update 2023	Clinical Neurology. 2024.03; 64(4): 252-271	Original Articles
90	Terashima T., Katagi M., Ohashi N.	内科学講座(脳神経内科)	Neuronal-Hematopoietic Cell Fusion in Diabetic Neuropathy	Stem cells translational medicine. 2023.04; 12(4): 215-220	Original Articles
91	Nitta N., Tsuji A.	脳神経外科	Unilateral rete mirabile in multiple intracranial arteries with ipsilateral agenesis of the internal carotid artery: a case report	Journal of Medical Case Reports. 2023.06; 17(1): 268	Case Report
92	Aoyama S., Nitta N., Moritani S., et al.	脳神経外科	Cranial vault lymphoma - A case report and characteristics contributing to a differential diagnosis	Surgical Neurology International. 2023.05; 14: 107	Original Articles
93	Kawano H, Yamada S, Watanabe Y, et al.	脳神経外科	Aging and Sex Differences in Brain Volume and Cerebral Blood Flow	Aging Dis. 2023.11[オンラインファースト]	Original Articles
94	Nakasu S., Deguchi S., Nakasu Y.	脳神経外科学講座	IDH wild-type lower-grade gliomas with glioblastoma molecular features: a systematic review and meta-analysis	Brain Tumor Pathology. 2023.07; 40(3): 143-157	Review
95	Kitamura T., Terashima T., Katagi M., et al.	脳神経外科学講座	Bone marrow-derived mononuclear cells ameliorate neurological function in chronic cerebral infarction model mice via improvement of cerebral blood flow	Cytotherapy. 2023.11; 25(11): 1186-1199	Original Articles
96	Nakasu S, Nakasu Y, Tsuji A, et al.	脳神経外科学講座	Incidental diffuse low-grade gliomas: A systematic review and meta-analysis of treatment results with correction of lead-time and length-time biases	Neurooncol Pract. 2023.04; 10(2): 113-125	Review
97	Nakasu Y., Deguchi S., Nakasu S., et al.	脳神経外科学講座	Diagnostic accuracy of cerebrospinal fluid liquid biopsy and MRI for leptomeningeal metastases in solid cancers: A systematic review and meta-analysis	Neuro-Oncology Advances. 2023.05(オンライン); 5(1): vdad002	Original Articles
98	Hata T., Kato K., Kamiya K., et al.	脳神経内科	Persistent Left Superior Vena Cava with the Absence of the Right Superior Vena Cava and Atrial Appendage: Complex Pacemaker Implantation in a Patient Presenting with a Rare Vascular Anomaly	Internal Medicine. 2023.09; 63(10): 1373-1376	Original Articles

99	Yabata H., Riku Y., Miyahara H., et al.	脳神経内科	Nuclear Expression of TDP-43 Is Linked with Morphology and Ubiquitylation of Cytoplasmic Aggregates in Amyotrophic Lateral Sclerosis	International Journal of Molecular Sciences. 2023.07; 24(15): 12176	Original Articles
100	Nakamura R., Kurihara M., Kobashi S., et al.	脳神経内科	Ideal body weight-based determination of minimum oral calories beneficial to function and survival in ALS	Frontiers in Neurology. 2023.11(オンライン); 14: 1286153	Original Articles
101	Hata T, Kato K, Kamiya K, et al.	脳神経内科	Author's reply	Intern Med. 2024.01[オンラインファースト]	Others
102	Asada H., Takahashi T., Hayashi M., et al.	皮膚科	Disseminated B-cell pseudolymphoma successfully treated with narrowband UVB	Journal of Dermatology. 2023.12(オンライン); 50(12): e400-e401	Letter
103	Yamamoto M., Kokubu H., Yamamoto B., et al.	皮膚科	Dipeptidyl peptidase-4 inhibitor-related pemphigus herpetiformis with antibodies against desmocollin 3	Journal of Dermatology. 2024.01(オンライン); 51(1): e16-e18	Letter
104	Kokubu H., Takahashi T., Tateishi C., et al.	皮膚科	Associations of autoimmune bullous diseases and autoantibodies against epidermal autoantigens in patients with inflammatory myopathy	Modern Rheumatology. 2023.11; 33(6): 1207-1208	Original Articles
105	Yamada M., Furuta M., Fujimoto N.	皮膚科	Erythema multiforme major induced by tramadol	European Journal of Dermatology. 2023.08; 33(4): 437-439	Letter
106	Kokubu H., Tsukamoto Y., Takahashi T., et al.	皮膚科	Limited cutaneous systemic sclerosis with myositis showing drug-induced liver injury and thrombotic microangiopathy	International Journal of Rheumatic Diseases. 2023.07; 26(7): 1395-1398	Letter
107	Yamada M., Kokubu H., Fujimoto N.	皮膚科	Perifollicular xanthoma occurring after treatment with osimertinib	European Journal of Dermatology. 2023.10; 33(5): 562-564	Letter
108	Kokubu H., Kataoka K., Kato T., et al.	皮膚科	Immunohistochemistry of a cellular infiltrate in a case of nivolumab-induced alopecia areata	European Journal of Dermatology. 2023.08; 33(4): 443-444	Letter

109	Kokubu H., Takahashi T., Kabuto M., et al.	皮膚科	Analysis of IL-10 and IL-35 in dipeptidyl peptidase-4 inhibitor-related bullous pemphigoid	Experimental Dermatology. 2023.09; 32(9): 1569-1574	Original Articles
110	Kokubu H., Takeuchi S., Tozawa T., et al.	皮膚科	Assessing prognostic factors correlating with response to nintedanib for connective tissue disease-associated interstitial lung disease: A real-world single-center study	International Journal of Rheumatic Diseases. 2023.04; 26(4): 682-688	Original Articles
111	Sugiura S., Nakanishi T., Fujimoto N.	皮膚科	Cutaneous pseudolymphoma successfully treated with dupilumab	European Journal of Dermatology. 2023.06; 33(3): 307-309	Letter
112	Ikuno Y., Takahashi T., Yamaguchi A., et al.	皮膚科	Cutaneous infection by Mycobacterium lentiflavum diagnosed by matrix-assisted laser desorption/ionization time-of-flight mass spectrometry (MALDI-TOF MS)	Journal of Dermatology. 2023.11(オンライン); 50(11): e373-e374	Letter
113	Ikuno Y., Kokubu H., Kato M., et al.	皮膚科	Polypoid Malignant Melanoma with Spontaneous Decapitation Showing Favorable Prognosis: A Case Report	Case Reports in Oncology. 2023.12; 16(1): 1568-1572	Case Report
114	Yamaguchi A., Takahashi T., Kato T., et al.	皮膚科	Immunohistochemical and clinicopathological study regarding nardilysin on extramammary Paget's disease	Archives of Dermatological Research. 2023.09; 315(7): 1979-1987	Original Articles
115	Kokubu H., Takahashi T., Shiohara M., et al.	皮膚科	Anti-transcriptional intermediary factor 1gamma antibody-positive dermatomyositis with intravascular lymphoma	European Journal of Dermatology. 2023.06; 33(3): 314-316	Letter
116	Kokubu H., Nakanishi T., Kato T., et al.	皮膚科	Necrosis of Pedunculated Lipofibroma by Nab-Paclitaxel	Case Reports in Oncology. 2023.05; 16(1): 362-365	Original Articles
117	Ikuno Y., Kokubu H., Yamaguchi A., et al.	皮膚科	Disseminated adult xanthogranuloma successfully treated with doxycycline	European Journal of Dermatology. 2023.06; 33(3): 317-319	Letter
118	Kokubu H., Ikuno Y., Uchiyama K., et al.	皮膚科	Exploratory study on quantitative assessment of skin hardness in patients with systemic sclerosis using SOFTGRAM	Clinical and Experimental Rheumatology. 2023.10; : -	Original Articles

119	Ikuno Y, Kokubu H, Yamaguchi A, et al.	皮膚科	Isolated Verrucous Mycosis Fungoides with an Etiological Clue	Indian J Dermatol. 2023.11; 68(6): 728.	Original Articles
120	Koike T., Kokubu H., Teramura K., et al.	皮膚科学講座	Actinomyces odontolyticus infection associated with a horse bite in an immunocompetent man	European Journal of Dermatology. 2023.06; 33(3): 299-301	Letter
121	Inatomi A., Nishinaka T., Umeki A., et al.	母子診療科	Feasibility study of an artificial placenta system consisting of a loop circuit configuration extracorporeal membrane oxygenation with a bridge circuit in the form of the umbilical arterial-venous	Journal of Artificial Organs. 2023.12; 26(4): 287-296	Original Articles
122	Katsura D., Tsuiji S., Tokoro S., et al.	母子診療科	Evaluation of amniotic fluid neutrophil gelatinase- associated lipocalin and L-type fatty acid-binding protein levels during pregnancy	European Journal of Obstetrics and Gynecology and Reproductive Biology: X. 2023.12; 21: 100269	Original Articles
123	Ohashi M., Tsuiji S., Kasahara K., et al.	母子診療科	Influence of Cesarean Section on Postpartum Fertility and Dysmenorrhea: A Retrospective Cohort Study in Japan	Women's Health Reports. 2024.01; 5(1): 22-29	Original Articles
124	Kasahara M., Koshida S., Tokoro S., et al.	母子診療科	Potential prevention of stillbirth caused by placental abruption: a regional population-based study in Japan	Journal of Maternal-Fetal and Neonatal Medicine. 2024.02; 37(1): 2321485	Original Articles
125	Katsura D., Tsuiji S., Hayashi K., et al.	母子診療科	Amniotic fluid interleukin-6 and neutrophil gelatinase- associated lipocalin for predicting fetal inflammatory response syndrome based on histological chorioamnionitis and funisitis	Taiwanese Journal of Obstetrics and Gynecology. 2023.07; 62(4): 516-520	Original Articles
126	Katsura D., Tsuiji S., Hoshiyama T., et al.	母子診療科	A Trimming Technique: A Case Report of a Novel Surgical Approach for Cesarean Scar Dehiscence During Cesarean Section	Yonago Acta Medica. 2023.04; 66(2): 287-291	Case Report
127	Tokoro S., Koshida S., Tsuiji S., et al.	母子診療科	Insufficient antenatal identification of fetal growth restriction leading to intrauterine fetal death: a regional population-based study in Japan	Journal of Maternal-Fetal and Neonatal Medicine. 2023.12; 36(1): 2167075	Original Articles
128	Chatani S., Tsukii R., Nagasawa K., et al.	放射線科	Difficult removal of totally implantable venous access devices in adult patients: Incidence, risk factors, and management	Journal of Vascular Access. 2023.09; 24(5): 1150-1157	Original Articles

129	Inoue A., Sheedy S.P., Wells M.L., et al.	放射線科	Rectal cancer pelvic recurrence: imaging patterns and key concepts to guide treatment planning	Abdominal Radiology. 2023.06; 48(6): 1867-1879	Review
130	Uemura R., Nagatani Y., Hashimoto M., et al.	放射線科	Association of Respiratory Functional Indices and Smoking with Pleural Movement and Mean Lung Density Assessed Using Four-Dimensional Dynamic-Ventilation Computed Tomography in Smokers and	International Journal of COPD. 2023.05; 18: 327-339	Original Articles
131	Yanagi Y., Monzen H., Kubo K., et al.	放射線部	Comparison of the Characteristics of Two Types of Parallel-plate Ionization Chamber under Small-field Electron Irradiation	Anticancer Research. 2023.05; 43(5): 1967-1972	Original Articles
132	Ohashi K., Nagatani Y., Yoshigoe M., et al.	放射線部	Applicability Evaluation of Full-Reference Image Quality Assessment Methods for Computed Tomography Images	Journal of Digital Imaging. 2023.12; 36(6): 2623-2634	Original Articles
133	Ohashi K., Iguchi H., Nagatani Y., et al.	放射線部	Usefulness of preset count acquisition in pediatric 99m Tc-DMSA planar imaging	Annals of Nuclear Medicine. 2023.08; 37(8): 470-477	Original Articles
134	Yanagi Y, Kubo K, Ito T, et al.	放射線部	Comparing Dose Calculation Algorithms for Heterogeneous Media: Analytical Anisotropic Algorithm Versus Acuros XB (Dm/Dw) With Continuous CT Value Variation	Cureus. 2023.10(オンライン); 15(10): e46805.	Original Articles
135	Akazawa M., Yan G., Hirai R., et al.	麻酔科	Anesthetic Management with Propofol in a Patient with Rasmussen's Encephalitis Complicated by Intractable Partial-Onset Epileptic Seizures: A Case Report	Case Reports in Neurology. 2023.10; 15(1): 233-237	Case Report
136	Kojima A., Fukushima Y., Matsuura H.	麻酔学講座	Prediction of anesthetic torsadogenicity using a human ventricular cell model	Journal of Anesthesia. 2023.10; 37(5): 806-810	Original Articles
137	Fukui R., Noda S., Ikeda Y., et al.	薬剤部	Relationships of Proton Pump Inhibitor-Induced Renal Injury with CYP2C19 Polymorphism: A Retrospective Cohort Study	Clinical Pharmacology and Therapeutics. 2024.01; 115(5): 1141-1151	Original Articles
138	Kamiya T., Hira D., Nakajima R., et al.	薬剤部	Decreased Analgesic Effect of Tramadol in Japanese Patients with CYP2D6 Intermediate Metabolizers after Orthopedic Surgery	Biological and Pharmaceutical Bulletin. 2023.07; 46(7): 907-913	Original Articles

139	Chano T., Kita H., Yamashita T., et al.	臨床検査医学講座	A Paradigm Shift: The Reclassification of SARS-CoV- 2 and Longitudinal Immune Responses in Japanese Healthcare Workers	COVID. 2024.01; 4(7): 884-889	Original Articles
140	Mbugua R.W., Takano A., Tsevegjav B., et al.	臨床腫瘍学講座	Characterization of KIF20B as a novel prognostic biomarker and therapeutic target for breast cancer	International Journal of Oncology. 2024.03; 64(4): -	Original Articles
141	Sumimoto H., Takano A., Igarashi T., et al.	臨床腫瘍学講座	Oncogenic epidermal growth factor receptor signal-induced histone deacetylation suppresses chemokine gene expression in human lung adenocarcinoma	Scientific Reports. 2023.05(オンライン); 13(1): 5087	Original Articles
142	Teramoto K., Igarashi T., Kataoka Y., et al.	臨床腫瘍学講座	Prognostic impact of soluble PD-L1 derived from tumor- associated macrophages in non- small-cell lung cancer	Cancer Immunology, Immunotherapy. 2023.11; 72(11): 3755-3764	Original Articles

計142件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 手順書の主な内容 「滋賀医科大学 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する手順書」 「研究の実施に伴って取得した個人情報等の安全管理措置に関する標準業務手順書」	
③ 倫理審査委員会の開催状況 2023年4月13日、5月11日、6月8日、7月13日、8月10日、9月14日、 10月12日、11月9日、12月14日、2024年1月11日、2月22日、3月14日	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 規定の主な内容 滋賀医科大学利益相反マネジメント規程において、利益相反マネジメントの対象、利益相反マネジメント委員会の設置、アドバイザーの設置及び職員等の責務等を定めている。また組織的利益相反マネジメントについても委員会を設置し、役員、管理職の利益相反、組織的意思決定に関する利益相反のマネジメントも行っている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年1回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年5回
<p>・研修の主な内容</p> <p>【研究者用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2023年人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針講習会（SUMS e-learning） ・ICR-web：臨床研究の基礎知識講座（旧 臨床研究入門初級編）（e-learning） ・APRIN：01_責任ある研究行為：基盤編（e-learning） ・令和5年度臨床研究・治験従事者研修（医師・歯科医師）（web） <p>【委員/事務局用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2023年度倫理教育研修会・倫理審査室 年次報告（web） <p style="text-align: right;">受講者数（延べ）841人</p>	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

卒後 3 年目から 7 年目の医師を対象とし、実践的で高い臨床能力を持ち、倫理性・科学性に富む専門医の育成を目標としている。
プログラムコースは各診療科により若干異なるが、卒後 3 年目を滋賀医科大学医学部附属病院で研修した後、市中関連病院に 1～2 年間出向の後、滋賀医科大学医学部附属病院に戻る、あるいは更に別の関連病院に 1～2 年間勤務した後戻るといったコース編成となっている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	79	人
-------------	----	---

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
中川 義久	循環器内科	教授、診療科長	38年	
中野 恭幸	呼吸器内科	教授、診療科長	35年	アレルギー科を含む
稲富 理	消化器内科	准教授、診療科長	25年	
村田 誠	血液内科	教授、診療科長	32年	感染症内科を含む
久米 真司	糖尿病内分泌内科 、腎臓内科	教授、診療科長	25年	代謝内科を含む
漆谷 真	脳神経内科	教授、診療科長	33年	
醍醐 弥太郎	腫瘍内科	教授、診療科長	30年	
丸尾 良浩	小児科	教授、診療科長	35年	アレルギー科を含む
尾関 祐二	精神科	教授、診療科長	31年	
藤本 徳毅	皮膚科	教授、診療科長	26年	アレルギー科を含む
谷 眞至	消化器外科	教授、診療科長	37年	
石川 原	乳腺・小児・一般外科	講師、診療科長	28年	
荒田 順	形成外科	特任教授、診療科長	30年	
鈴木 友彰	心臓血管外科	教授、診療科長	27年	
花岡 淳	呼吸器外科	准教授、診療科長	34年	
今井 晋二	整形外科	教授、診療科長	35年	リウマチ科を含む
吉田 和道	脳神経外科	教授、診療科長	30年	
大脇 成広	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	准教授、診療科長	30年	アレルギー科を含む
村上 節	産婦人科	教授、診療科長	38年	
影山 進	泌尿器科	講師、診療科長	32年	
澤田 修	眼科	講師、診療科長	29年	
北川 裕利	麻酔科	教授、診療科長	33年	
渡邊 嘉之	放射線科	教授、診療科長	32年	
塩見 直人	救急科	教授、診療科長	29年	
高岡 一樹	歯科口腔外科	教授、診療科長	29年	
児玉 成人	リハビリテーション科	准教授、診療科長	29年	
九嶋 亮治	病理診断科	教授、診療科長	38年	
辻 喜久	総合診療科	特任教授、診療科長	23年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
薬剤（麻薬・抗がん剤・インスリン・血液製剤等）、輸液管理、
12誘導心電図・心電図モニター管理、フィジカルアセスメント、
人工呼吸器管理、急変時対応等について
- ・研修の期間・実施回数：2023年度（4月7日～2月24日）・67回
- ・研修の対象、参加人数：看護師 各回 76名

- ・研修の主な内容
様々な疾患に関する栄養管理、病院食に対して
- ・研修の期間・実施回数：2023年度6月、12月、3月 実施回数：5回
- ・研修の対象、参加人数：看護師 各回 40名、リハビリ職員 各回 7名

- ・研修の主な内容
薬剤師を対象に、プレアボイド報告事例についての説明を行った（Web開催）
- ・研修の期間・実施回数：2023年4月3日・1回
- ・研修の対象、参加人数：薬剤師、33名

- ・研修の主な内容
リハビリテーションにおけるアウトカムとQOL評価について
- ・研修の期間・実施回数：2023年 9月15日 1回
- ・研修の対象、参加人数：理学療法士 作業療法士 言語聴覚士、38名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
医療機器安全管理研修（心電図モニター、除細動器、人工呼吸器）
- ・研修の期間・実施回数：2023年度（6月19日・20日、10月17日・18日）4回
- ・研修の対象、参加人数：看護師、各回 76名

- ・研修の主な内容
衛生管理
- ・研修の期間・実施回数：2023年10月25日～11月30日（直接講習とオンデマンド講習）
- ・研修の対象、参加人数：管理栄養士、調理師 各回 50人

・研修の主な内容

栄養評価、栄養投与法の選択、静脈栄養、経腸栄養、疾患別栄養管理

・研修の期間・実施回数：4月2日、4月4日、5月12日、5月26日、6月16日、6月23日、7月7日、7月21日、8月4日、8月18日、9月8日、9月15日、9月29日、10月13日、10月27日、11月10日、11月24日、12月8日、12月22日、1月5日、1月19日、2月2日、2月16日、3月1日、3月15日、3月29日、

・研修の対象、参加人数：管理栄養士、各回 14-16人

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 田中 俊宏
管理担当者氏名	事務部長 (病院担当) 森田 浩司

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	クオリティマネジメント課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	医務課
		看護記録	医務課
		検査所見記録	医務課
		エックス線写真	放射線部
		紹介状	医務課
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医務課

				可が必要となる。 紙の入院診療録の院外持出は、病歴部長及び病院長の許可が必要であるため、診療情報管理係に申出る。
病院の管理及び運営に関する諸記録	項に掲げる事項 規則第二十二條の三第三	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	病院情報システムのそれぞれの部門システムにて管理されている。 法人文書管理規則及び法人文書ファイル保存要領により管理している。
		高度の医療の提供の実績	クオリティマネジメント課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	クオリティマネジメント課	
		高度の医療の研修の実績	クオリティマネジメント課	
		閲覧実績	総務企画課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療サービス課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医務課、薬剤部	
	項に掲げる事項 規則第一條の十一第一項に掲げる事	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	法人文書管理規則及び法人文書ファイル保存要領により管理している。
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部CEセンター
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部CEセンター	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部CEセンター	

法人文書管理規則及び法人文書ファイル保存要領により管理している。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	病理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	病理部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	手術部、放射線部、光学医療診療部、高難度・未承認管理室、医療サービス課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部、高難度・未承認管理室、病院経営戦略課、医療サービス課
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療サービス課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	クオリティマネジメント課
		職員研修の実施状況	医療安全管理部、感染制御部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部
管理者が有する権限に関する状況	クオリティマネジメント課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	監査室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務企画課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 <input type="radio"/> 2. <input checked="" type="radio"/> 現状
閲覧責任者氏名	上本 伸二
閲覧担当者氏名	叶 富士一
閲覧の求めに応じる場所	管理棟2階 総務企画課内 情報公開室
閲覧の手続の概要 開示請求者から「法人文書開示請求書」を受領後、「情報公開・個人情報保護委員会」の審議を経て、学長が開示・不開示の決定をする。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療安全管理に関する基本的な考え方 2) 医療安全管理のための委員会その他組織に関する基本的事項 3) 医療安全管理のための職員研修に関する基本方針 4) 報告等にもとづく医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5) 医療事故等重大なインシデント発生時の対応に関する基本方針 6) 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 7) 患者からの相談への対応に関する基本指針 8) その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（有・無） ・ 開催状況：年 12 回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療安全管理の企画立案に関すること。 (2) インシデント（医療事故含む）等の状況の分析に関すること。 (3) 全死亡例、死産例に関すること。 (4) 高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等を用いた医療の適否結果及び従事者の遵守状況に関すること。 (5) 本院で実施する臨床研究（以下「臨床研究」という。）の把握並びに当該臨床研究において発生した重篤な有害事象及び不適合への対応に関すること。 (6) 医療安全の確保に資する、診療状況の把握に関すること。 (7) 医療安全管理に係る教育及び研修に関すること。 (8) 医療安全管理指針の策定及び変更に関すること。 (9) 医薬品安全使用のための業務手順書の作成又は変更に関すること。 (10) 医療機器安全使用に関すること。 (11) 医療放射線安全使用に関すること。 (12) 院内で行われる、実習、研修など教育活動に伴う患者安全管理に関すること。 (13) 医療安全マニュアルに関すること。 (14) インシデント（医療事故含む）の公的機関への報告及び公表等に関すること。 (15) インシデント（医療事故含む）の患者及び家族等への対応に関すること。 (16) インシデント（医療事故含む）の医事紛争及び訴訟に関すること。 (17) その他（医用材料等）、安全使用及びインシデントの対応に関すること。 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 8 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ol style="list-style-type: none"> 1 特定機能病院としての医療安全管理について 2 患者誤認を防ごう 3 がんの痛みと医療用麻薬 4 CCOT / 特定行為実践における確認事項 5 令和4年度医療安全に関する取り組み～優秀3部署のご紹介～ 6 転ばぬ先の杖・危険予測 7 中心静脈カテーテル挿入認定ガイドライン 8 医薬品に関連したインシデントの動向と対策 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施	

状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備（・無）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - 1) ニュース・レターの発行や院内ホームページへの掲載により、職員に周知している。
 - 2) 毎月の重要なインシデント及びその対策について各部署リスクマネジャーが周知し、情報の共有化を図っている。
 - 3) 院内ラウンドによるチェックを行っている。
 - 4) リスクマネジャー会議を開催し、医療安全管理部での検討事項、具体的な改善計画等の情報を伝達している

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 院内感染対策に関する基本的な考え方 2) 院内感染対策のための委員会その他の組織に関する基本的事項 3) 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針 4) 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5) 院内感染発生時の対応の基本方針 6) 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7) その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染予防対策の企画立案に関すること。 2) 院内感染対策のための指針の策定及び変更に関すること。 3) 感染予防対策マニュアルに関すること。 4) 感染予防対策に係る監視及び指導に関すること。 5) 感染予防対策に係る調査に関すること。 6) 感染予防対策に係る教育及び研修に関すること。 7) その他感染予防対策に関すること。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年8回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ol style="list-style-type: none"> 1 標準予防策～個人防護具(PPE)の着脱～ 2 【医療職向け】当院の結核症例／【事務職向け】結核（概論） 3 感染症セミナー「血液培養」 4 感染症セミナー「感染症の診断と治療」 5 感染症セミナー「細菌検査の検体採取と保存～アンチバイオグラムの使用方法について～」 6 感染症セミナー「抗MRSA薬の使い方・グリコペプチド系抗菌薬のTDM」 7 感染症セミナー「キノロン系抗菌薬・アミノグリコシド系抗菌薬とそのTDM」 8 感染症セミナー「ペニシリン系・セフェム系抗菌薬の使い方」 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 （ 有・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染制御部ニュースの発行や院内ホームページへの掲載及び学内メールにより、職員に周知している。 2) 感染制御部および感染対策チーム委員会において、感染症の発生状況と対策について検討し、各部署の感染リンクスタッフに周知し、情報の共有化を図っている。 3) 実施状況について院内ラウンドによるチェックを行っている。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 5 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1) 2023. 4. 4 研修医を対象に、薬剤部の役割と医薬品のオーダー方法について講義を行った（33名参加）</p> <p>2) 2023. 4. 7～7. 4公開 新人看護師を対象に、医薬品の安全使用に関する講義を行った（延べ76名参加）</p> <p>3) 2023. 7. 4～2024. 3. 31公開 病院職員を対象に、がんの痛みと医療用麻薬に関する講義を行った（延べ891名参加）</p> <p>4) 2023. 9. 20 3C病棟新人看護師を対象に、抗がん剤に関する講義を行った（4名参加）</p> <p>5) 2023. 10. 4 3C病棟新人看護師を対象に、吸入薬に関する講義を行った（5名参加）</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 （有・無）</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>医薬品の採用、医薬品の購入、調剤室における医薬品の管理、病棟・各部門への医薬品の供給、病棟・各部門における医薬品の管理、外来患者への医薬品使用、入院患者への医薬品使用、麻薬の取扱い、治験薬の取扱い、特定生物由来製品の取扱い、要管理薬（向精神薬・筋弛緩薬・覚醒剤等）の取扱い、未承認・適応外・禁忌等に該当する医薬品の取扱い、院内製剤、医薬品情報の収集・管理・提供、外来化学療法部門、手術・麻酔部門、ICU、輸血・血液管理部門、画像診断部門、歯科領域、血液浄化部門、他施設との連携、重大な有害事象の予防・対応、事故発生時の対応、教育・研修、特に安全管理が必要な医薬品</p> <p>2023年9月～10月に、院内各部署の担当医長・師長・薬剤師の3者で、手順書に基づく業務の実施状況の確認を行った。</p> <p>2023年8月に手順書の改訂（17版）を行った。</p> <p>2024年1月に手順書の改訂（18版）を行った。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有・無）</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：</p> <p>○硝子体内手術時の硝子体可視化、糖尿病・網膜静脈閉塞症・ぶどう膜炎に伴う黄斑浮腫に対するケナコルトA筋注用関節腔内用の使用</p> <p>○反復着床障害の改善を目的としたタクロリムスの使用</p> <p>○原発性抗リン脂質抗体症候群（低用量アスピリン＋ヘパリン治療を行っても生児獲得できない場合）に対するヒドロキシクロロキンの使用</p> <p>○再発性クロストリジウムディフィシル関連下痢症・腸炎に対する糞便移植</p> <p>○ステロイド抵抗性の移植後非感染性肺合併症の治療に対するエンブレルの使用</p> <p>○肝臓・胆道・膵臓疾患が疑われERCPによる診断または治療を受ける予定の症例に対するERCPに対するレミマゾラム（アネレム注）の使用</p> <p>○小児科領域での検査・処置時の鎮静に対するミダゾラム注射液の使用</p> <p>○メタノール（メチルアルコール）中毒に対するエタノールの使用</p> <p>○胸腹部、上下肢などにおける急性の動脈閉塞症に対するアルテプラゼの使用</p> <p>○1歳～11歳の造血幹細胞移植後の慢性移植片対宿主病（ステロイド剤投与で効果不十分な場合）に対するイムブルビカカプセルの使用</p>	

- 乳児発症STING関連血管炎(SAVI)に対するオルミエント錠（バリシチニブ）の使用
- 特発性肺炎症候群に対するジャカビ錠の使用
- 肺非結核性抗酸菌症（Mycobacterium abscessus症）に対するランプレンカプセルの使用
- 神経内分泌腫瘍G3に対するテモゾロミドとカペシタビンの併用療法
- リジン尿性蛋白不耐症に対するシトルリンの使用
- ブルガダ症候群の診断に対するピルシカイニドの使用
- ステロイド抵抗性の消化管GVHDに対するエンタイビオ（ベドリズムブ）の使用
- IgM型Monoclonal Gammopathy of Renal Significance (MGRS) の治療目的のため、原発性マクログロブリン血症に対するベレキシブル錠の使用
- 腹部における急性の動脈閉塞症に対するモンテプラーゼの使用
- ステロイド抵抗性の移植後非感染性肺合併症の治療に対するミコフェノール酸モフェチルカプセルおよびセルセプトカプセルまたは、セルセプト懸濁用散の使用
- 人工関節の感染（股関節、膝、肩等）に対する高濃度ゲンタマイシンの関節内投与
- ANCA関連血管炎に対するタブネオスカプセル（アバコパン）の使用
- 涙腺がん（アンドロゲン受容体陽性）に対するリュープロレリンとビカルタミドの併用療法
- 悪性腫瘍ないしは末期心不全などの身体疾患に伴う治療抵抗性の苦痛に対するミダゾラム注射液、フルニトラゼパム注射液、ジアゼパム坐剤、フェノバルビタール坐剤の使用
- 全身性エリテマトーデスに対するサフネロー点滴静注の使用
- スティッフパーソン症候群の筋硬直に対する外来診療でのプロポフォールの使用
- 腎疾患（腎細胞癌、腎血管筋脂肪腫、血尿、腎動静脈奇形）、腎臓絶術、術前門脈塞栓、有症状の末梢血管奇形等に対する無水エタノール注射液の使用
- 難治性頻回部分発作重積型急性脳炎に対するデキサート注射液（デキサメタゾン）の使用
- けいれん性てんかん重積（末梢静脈確保が困難なもの）に対するミダゾラム注の使用
- 睪神経内分泌腫瘍G2に対するテモゾロミドとカペシタビンの併用療法
- 病棟および集中治療室での鎮静に対するデクスメドミジン静注液、プレセデックス静注液の使用
- ぶどう膜炎に対するリウマトレックスカプセル（メトトレキサート錠）の使用
- 集中治療室での鎮静に対するデクスメドミジン静注液の使用

・ その他の改善のための方策の主な内容：

1) 新規の取り組み

- 注射薬自動払出しシステムへの薬剤充填間違いを防止するため、自動払い出しと同時に医薬品のバーコードを読み取る機能を追加し、処方薬と払い出し薬が異なる場合はエラーが表示されるようにした。
- ワクチンの期限切れ調剤を防止するため、処方箋上に期限確認欄を新たに追加した。鑑査する薬剤師は期限も含めて鑑査を行い、処方箋に鑑査者印を押印することとした。

2) 継続的な取り組み

- 医薬品安全管理副責任者4名を任命し、院内の医薬品の使用状況の把握や安全性情報の伝達等を行っている。
- 緊急性を要する安全性情報や添付文書改訂情報は、随時、薬剤部から病院全職員にメール送信している。また、特定の診療科で使用する薬剤については、病棟薬剤師を通じ、該当医薬品を使用する医師や看護師等に直接情報を伝達し、周知を行っている。特に病院全職員に周知が必要な情報を紙ベース（クスリのリスクコミュニケーション）で回覧し、確認後、押印してもらい回収している。
- 医薬品情報に特化した院内医療従事者専用のWEBページを作成し、医薬品の採用削除、添付文書改訂、医薬品の供給不足、安全性情報及び回収情報等を閲覧できるようにしている。検索機能もあるため、過去情報の検索も可能である。
- 医薬品集電子版を電子カルテ全端末に配信している。医薬品添付文書情報だけでなく、薬剤部で作成したハイリスク薬や術前中止薬一覧等も掲載され、医師がオーダー時に参照可能である。
- 厚労省に報告した副作用情報は、薬事委員会に報告し、安全使用のための改善策や院内への周知

広報について協議を行っている。

- 患者支援センターに薬剤師が常駐し、処方薬や市販薬・サプリメント等の使用状況を把握し、術前中止薬の有無について確認を行っている。
- 使用が承認された未承認等の医薬品の情報は、該当する病棟の担当薬剤師に連絡し、使用状況や有害作用の発生の有無を定期的に確認し、必要なら是正を指導する。また、リスク分類を行い、ハイリスクに分類されたものについては、項目を決め、モニタリングの強化を行っている。
- 併用禁忌薬、妊婦禁忌薬、アレルギー禁忌薬、及び病態禁忌薬は、電子カルテシステム及び部門システムで処方状況を把握し、薬剤部内リスクマネジメント会議において、使用状況や不適切な使用の有無を確認し、必要なら病棟薬剤師を通じて是正を指導する。
- 疑義照会記録はデータベース化し、特に注意すべきものについて、薬剤部内で情報共有している。情報共有したもの以外のデータについても、必要時には検索・照会が可能である。
- 調剤の画像鑑査システムを導入し間違いを防止している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年5回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： ・ 新規中途採用者研修（医師、看護師、メディカルスタッフ）e-Learning ・ 新規中途採用者医療機器安全研修（医師、看護師、メディカルスタッフ）e-Learning ・ 新規採用研修医研修 対面（実習あり） ・ 新規採用看護師（新卒）研修 対面（実習あり） ・ e-Learningによる9機種の使用者に対する研修会を実施（PCPS、IABP、人工呼吸器、血液浄化装置、保育器、除細動器、シリンジポンプ、輸液ポンプ、ベッドサイドモニタ） 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <p>年1回のメーカーによる保守点検 シリンジポンプ、輸液ポンプ、人工呼吸器、麻酔器、人工心肺装置、PCPS、IABP、保育器、透析装置（CHDF等含む）、da Vinci、HINOTORI</p> <p>臨床工学部による月1回または3か月に1回、年1回の定期点検の実施 除細動器、人工呼吸器、麻酔器、PCPS、IABP、AED（各月1回） 透析装置「CHDF等含む」、電気メス、手術内視鏡システム、エアパッド監視装置（各3か月1回）、体外式ペースメーカー（年1回）</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：なし <ul style="list-style-type: none"> ・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>PMDAからの情報収集及びメーカーによる情報収集を行っている。 臨床工学部より医療機器の安全使用のためのニュースレターを月1回出している。 PMDAやメーカーからの回収情報等をメールにて注意喚起、回収の連絡を行っている。 医療機器安全管理情報のホームページを作成し、PMDAからの回収情報やニュースレターやお知らせ文書などを掲載している。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（<input checked="" type="checkbox"/>医師・<input type="checkbox"/>歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者を副病院長（医療安全等担当）とし、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（4名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>薬剤部医薬品情報管理室で情報の収集・整理を行っている。また、iPicを用いて情報発信するとともに、定期的に「クスリのリスクコミュニケーション」を発行し、回覧することにより周知している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>平成29年4月より高難度医療・未承認医薬品等管理室が窓口となり、「未承認・未認証・未届・適応外・禁忌・禁止に該当するレジメン使用申請書」、「国内未承認・適応外・禁忌に該当する医薬品の臨床使用申請書」を受け付け、医薬品安全管理責任者が委員長でもある治療担当部門の薬事委員会での審査を行っている。</p> <p>・担当者の指名の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・<input type="checkbox"/>無）</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部，職種 薬剤師） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・<input type="checkbox"/>無）</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：医師・看護師・診療情報管理士等で構成しているワーキンググループにおいて、説明・同意書がマニュアルに沿った構成であるかを確認のうえ使用している。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>責任者の指示の下、定期的に同意書や治療に関する説明の有無および診療記録の内容について、多職種による監査を行っている。また、監査結果を病歴部連絡協議会で報告し、記載の充実を図るべき内容について指導を行っている。不十分な記載があった場合は、責任者の指示の下、指導を行っている。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（5）名、専任（ ）名、兼任（12）名</p> <p>うち医師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（3）名</p> <p>うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（2）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) インシデント防止の推進に関すること。 (2) インシデント発生時の調査及び分析に関すること。 (3) インシデント等に関する事例、対策等の情報収集に関すること。 (4) 全死亡例に関する、集計、分析、報告等に関すること。 (5) 医療安全の確保に資する、診療状況の把握に関すること。 (6) 医療安全管理委員会への情報提供及び改善策の提案に関すること。 (7) 医療安全管理に関する教育、研修等の企画及び実施に関すること。 (8) 医療安全に関する院内巡視、記録等の点検及び評価に関すること。 (9) 医療安全マニュアルの作成に関すること。 (10) 医療安全に関する広報・啓発活動に関すること。 (11) リスクマネジャー会議・事例検討会等に関すること。 (12) 本院で実施する臨床研究の把握並びに当該臨床研究において発生した重篤な有害事象及び不適合へ情報収集に関すること。 (13) その他医療安全の推進に関すること。 <p>・平時からのモニタリングの具体例：</p> <p>「中心静脈穿刺時の合併症発生」「患者影響レベル3 b以上の転倒転落」「KCL注使用状況」「術後3週間以内の再手術」についてモニタリングを行い、医療安全管理委員会で報告している。</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（13件）、及び許可件数（11件）</p> <p>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）</p> <p>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療</p>	

技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）

・活動の主な内容：

各診療科より提出される申請内容を確認し、各関係委員会へ適否について審議依頼し適否結果の報告を受ける。高難度医療・未承認医薬品等管理室会議で最終審議を行い、適否結果を各診療科等に通知する。

各関係委員会は高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供又は使用されていたかどうかに関し、診療録等の記載内容を確認し遵守状況のモニタリングを行う。

高難度新規医療技術の提供又は使用の適否等について決定したとき及び遵守状況を確認したときに、その内容について医療安全管理委員会に報告する。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（51件）、及び許可件数（45件）

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）

・活動の主な内容：

各診療科より提出される申請内容を確認し、各関係委員会へ適否について審議依頼し適否結果の報告を受ける。高難度医療・未承認医薬品等管理室会議で最終審議を行い、適否結果を各診療科等に通知する。

各関係委員会は未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて提供又は使用されていたかどうかに関し、診療録等の記載内容を確認し遵守状況のモニタリングを行う。

未承認新規医薬品等の提供又は使用の適否等について決定したとき及び遵守状況を確認したときに、その内容について医療安全管理委員会に報告する。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 288 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 178 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
医療安全管理委員会で周術期死亡、術後在院死亡の事例について報告し、必要に応じて事例検討会、事例調査検討委員会を開催し原因、対策等について検討している。また、関係部署での M&M カンファレンスの実施指導を行っている。また、影響レベル 3b 以上の事象や合併症報告などについても医療安全管理委員会で報告し、原因対策等について検討している。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（）（病院名：弘前大学医学部附属病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（）（病院名：徳島大学病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況
高難度新規医療技術について、IC で用いる患者説明同意文書に当該医療技術を用いるのが何例目かを記載できるよう、様式の変更などを検討していただきたい旨助言を行った。
また、IC で用いる患者説明同意文書の記載内容について、高難度新規医療技術を審議する部門以外でも事務部門含め多職種でチェックを行うことを検討していただきたい旨助言を行った。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
患者支援センター内に患者相談窓口を設置し、医療安全及び医療上のインシデントに関する相談については、医療安全管理者と連携して対応している。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況
2023 年 6 月 28 日 e-learning 開講 特定機能病院としての医療安全管理について
2023 年 6 月 28 日 e-learning 開講 患者誤認を防ごう
2023 年 7 月 3 日 e-learning 開講 がんの痛みと医療用麻薬
2023 年 9 月 13 日 e-learning 開講 CCOT / 特定行為実践における確認事項

2023年9月13日 e-learning 開講 令和4年度医療安全に関する取り組み
～優秀3部署のご紹介～

2023年10月3日 e-learning 開講 転ばぬ先の杖・危険予測

2023年10月4日 e-learning 開講 中心静脈カテーテル挿入認定ガイドライン

2023年10月30日 e-learning 開講 医薬品に関連したインシデントの動向と対策

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

2023年度特定機能病院管理者研修を受講

管理者・・・継続第1回(2023.11.20)

医療安全管理責任者・・・継続第4回(2024.1.26)

医薬品安全管理責任者・・・継続第3回(2024.1.15)

医療機器安全管理責任者・・・継続第3回(2024.1.15)

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

公益財団法人日本医療機能評価機構

認定期間：2024年2月16日～2025年3月31日

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

病院ホームページに病院機能評価認定証取得についてのページを設け、公益財団法人日本医療機能評価機構ホームページの審査結果公開ページのリンクを貼ることで結果を公表している。

なお、医療機関内における事故について指摘事項はなかった。

・評価を踏まえ講じた措置

医療機関内における事故について指摘事項はなかった。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準	
<p>・ 基準の主な内容</p> <p>1. 優れた学識、豊かな人間性と高い倫理観を持つ医師であり、大学における教育・研究・診療活動を適切にかつ効率的に運営することができる者。 ※医学系教授の経験を有する者が望ましい。</p> <p>2. 医療安全管理業務の経験と、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力等を有する者。 ※医療安全管理業務の経験とは下記のいずれかの業務に従事した経験を有するものであること（厚生労働省通知）</p> <p>①医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の業務</p> <p>②医療安全管理委員会の構成員としての業務</p> <p>③医療安全管理部門における業務</p> <p>④その他上記に準じる業務</p> <p>3. 附属病院または附属病院以外の病院での組織管理経験など、高度な医療を司る特定機能病院の管理運営上必要な資質・能力を有する者。 ※病院長または副病院長の経験を有することが望ましい。</p> <p>4. 「滋賀医科大学医学部附属病院の理念及び基本方針」及び「滋賀医科大学中期目標（附属病院に関する目標）等」に基づいた病院運営を遂行できる者。</p> <p>・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ）</p> <p>・ 公表の方法 本学ホームページに掲載している。</p>	

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
<p>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ）</p> <p>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ）</p> <p>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ）</p> <p>・ 公表の方法 本学ホームページに掲載している。</p>	
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由	

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
遠山 育夫	理事（研究・企画・国際担当）	○	滋賀医科大学医学部附属病院長選考会議規程第3条第1項第1号に基づき学長が指名する理事	有
松浦 博	理事（教育・学生支援・コンプライアンス担当）		滋賀医科大学医学部附属病院長選考会議規程第3条第1項第1号に基づき学長が指名する理事	有
谷 眞至	外科学講座（消化器外科） 教授		滋賀医科大学医学部附属病院長選考会議規程第3条第1項第2号に基づき学長が指名する教授	有
漆谷 真	内科学講座（脳神経内科） 教授		滋賀医科大学医学部附属病院長選考会議規程第3条第1項第2号に基づき学長が指名する教授	有
村上 節	副病院長（医療安全担当）		滋賀医科大学医学部附属病院長選考会議規程第3条第1項第3号に基づき学長が指名する副病院長	有
小寺 利美	副病院長（看護担当）		滋賀医科大学医学部附属病院長選考会議規程第3条第1項第3号に基づき学長が指名する副病院長	有
松末 吉隆	医療法人医仁会 武田総合病院リハビリセンター長		大学病院の元病院長として、医学・医療安全について豊富な経験等を有している。	有
三木 恒治	一般社団法人滋賀県病院協会会長 社会福祉法人恩賜財団済生会滋賀県病院長		滋賀県病院協会会長・済生会滋賀県病院の院長として、医学・医療安全について豊富な経験等を有している。	無
畑下 嘉之	社会福祉法人青祥会 理事長		滋賀医科大学経営協議会委員、学長選考・監察会議委員として、本学の重要事項の決定に参画いただいており、豊富な経験や高い見識を有している。	無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有・無
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <p>(1) 病院の将来計画に関する事項</p> <p>(2) 病院の運営に係る中期目標・中期計画に関する事項</p> <p>(3) 診療体制のあり方に関する事項</p> <p>(4) 病院の経営方針に関する事項</p> <p>(5) 病院の予算及び決算に関する事項</p> <p>(6) 病院の評価結果に基づく改善等に関する事項</p> <p>(7) その他病院の管理運営に関する重要事項</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>学内ホームページに毎月の議事録を掲載し、メールで職員に周知している。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・無）</p> <p>・公表の方法</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（有・無）</p>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
田中 俊宏	○	医師	病院長
村上 節		医師	副病院長
谷 眞至		医師	副病院長
北川 裕利		医師	副病院長
今井 晋二		医師	副病院長
小寺 利美		看護師	副病院長
森田 浩司		事務	副病院長
國友 陵一		事務	病院長補佐
中野 恭幸		医師	病院長補佐
中川 義久		医師	教授
渡邊 嘉之		医師	教授
森田 真也		薬剤師	部長
芦原 貴司		医師	部長
川崎 拓		医師	センター長
仲川 宏昭		医師	病棟医長連絡協議会委員長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法
- ・ 規程の主な内容

○病院の管理及び運営に必要な人事及び予算の執行権限

人事権：国立大学法人滋賀医科大学文書決裁規程

第5条 前条の規定にかかわらず、別表第2の事項欄に掲げる事項の決裁については、専決者欄に掲げる者が専決する。ただし、特別の事情がある場合は、この限りでない。

（別表第2）※該当箇所抜粋

区 分	事 項	名義者	専決者
人事課	(7) 附属病院に係る職員（教員を除く。）の 任免 及び給与に関するもの。	学 長	病 院 長
	(8) 病院規程（別に定める要項等を含む。） で規 定する科長等の役職者の命免に関するもの	学 長	病 院 長

予算執行権限：国立大学法人滋賀医科大学予算規則

会計規程第5条第2項に定める予算単位及び予算責任者は別表1のとおりとする。

（別表1（第4条関係）予算単位及び予算責任者）※該当箇所抜粋

区 分	事 項	名義者
医学部附属病院	国立大学法人滋賀医科大学学則第10条に定め る附属病院	病院長

○その他

医療安全等の確保のための診療等停止権限

：滋賀医科大学医学部附属病院における医療安全等の確保に関する規定

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

○病院に病院長を補佐し、職務を分担するため、次の各号に掲げる副病院長を置く。

(1) 副病院長（医療安全等担当）

病院における安全管理及び感染対策等の危機管理に関する職務を担当し、病院の円滑な運営を図る。

(2) 副病院長（労務・診療担当）

病院における労務及び診療に関する職務を担当し、病院の円滑な運営を図る。

(3) 副病院長（教育・臨床研究開発担当）

病院における教育及び臨床研究開発の支援に関する職務を担当し、病院の円滑な運営を図る。

(4) 副病院長（企画・評価担当）

病院における企画及び評価に関する職務を担当し、病院の円滑な運営を図る。

(5) 副病院長（看護担当）

病院における看護に関する職務を担当し、病院の円滑な運営を図る。

(6) 副病院長（事務統括・働き方改革担当）

病院における事務統括及び働き方改革に関する職務を担当し、病院の円滑な運営を図る。

○病院長は、特定の業務について処理させるため、次の各号に掲げる病院長補佐を指名することができる。

(1) 病院長補佐（広報・地域連携担当）

病院の広報及び地域医療機関との連携に関する職務を担当する。

(2) 病院長補佐（経営・機能強化担当）

病院の経営及び病院の機能強化に関する職務を担当する。

・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

○令和6年2月15日（木） 第4回病院経営次世代リーダー養成塾

【参加者】

- ・ 病院長補佐（新興感染症担当） 中野 恭幸
- ・ 病院長補佐（広報・地域連携担当） 漆谷 真
- ・ 薬剤部 教授 森田 真也

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況					<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 医療に係る安全管理についての業務方法書及び規則等の整備状況に関すること。</p> <p>(2) 関係法令，業務方法書，規則等に基づく業務の実施状況に関すること。</p> <p>(3) 医療安全管理責任者，医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の行うべき業務の状況に関すること。</p> <p>(4) 医療安全管理部の体制及び業務の状況に関すること。</p> <p>(5) 医療安全管理委員会の業務の状況に関すること。</p> <p>(6) その他本院における医療安全管理体制に関すること。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 公表の方法：病院ホームページに掲載している。</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
松村 由美	京都大学医学部 附属病院 医療 安全管理部	○	医療に係る安全管理に 関する業務に従事して いる	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
佐和 貞治	京都府立医科 大学附属病院		医療に係る安全管理に 関する業務に従事して いる	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
平野 哲郎	立命館大学 法科大学院法務 研究科		法律学に関する専門知 識に基づき教育・研究 業務に従事している	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
西川 甫			医療を受ける者の立場 から意見を述べる	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2
遠山 育夫	滋賀医科大学		大学の理事（研究・企 画・国際担当）の立場 で意見を述べる	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	3
松浦 博	滋賀医科大学		大学の理事（教育・学 生支援・コンプライア ンス担当）の立場で意 見を述べる	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

管理者の業務が法令に適合することを確認し、病院の健全な運営に資するために、専門部署として学長の下に「監査室」を設置しており、病院の運営状況を公正かつ客観的に調査及び検証するなど、内部監査を企画立案し実施している。

・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (・ 無)

・ 公表の方法
大学ホームページに掲載している。

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 <p>法人に重要事項を議決する機関として、学長及び理事をもって組織される役員会を設置しており、病院規程に定める組織（診療科、中央診療部等）の設置、廃止等ならびに重要な人事（部局長等の選考、看護部長の選考）については、当該合議体の議決事項として定めている。</p> <p>また、管理者から毎月開催している病院管理運営会議の審議内容を報告させ、病院の管理運営状況を監督している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議体の実施状況（年 26 回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）（年 26 回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無） ・ 公表の方法 大学ホームページに役員会規程を掲載している。 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年2件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 病院ホームページにて、QI（クオリティ・インディケーター）や本院の特色ある医療等を公開している	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 <栄養サポート> 消化器内科、乳腺・小児・一般外科、消化器外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、歯科口腔外科 糖尿病内分泌内科、腎臓内科 <緩和ケア> 腫瘍内科、精神科、循環器内科、消化器内科、消化器外科、乳腺・小児・一般外科 呼吸器外科、女性診療科、泌尿器科、麻酔科、放射線科、歯科口腔外科、小児科 <感染対策> 感染制御部、呼吸器内科、小児科、歯科口腔外科、消化器外科、乳腺・小児・一般外科 心臓血管外科、整形外科、救急・集中治療部 <抗菌薬適正使用支援> 感染制御部、呼吸器内科 <ハートケア> 循環器内科、歯科口腔外科	

<認知症ケア>

精神科、脳神経内科

<糖尿病療養チーム>

糖尿病内分泌内科、歯科口腔外科

<糖尿病透析予防>

糖尿病内分泌内科、腎臓内科

<周術期管理>

麻酔科、消化器外科、乳腺・小児・一般外科、歯科口腔外科

<摂食嚥下支援>

耳鼻咽喉科・頭頸部外科、歯科口腔外科

<早期離床・リハビリテーション>

救急・集中治療部、心臓血管外科

<フットケア>

糖尿病内分泌内科、皮膚科、整形外科

<肥満外科治療>

消化器外科、乳腺・小児・一般外科、糖尿病内分泌内科、歯科口腔外科、精神科

<移行期医療支援>

小児科、循環器内科、脳神経外科、脳神経内科、糖尿病内分泌内科